

五稜



第25号 (昭和60年度)



誠協真探 実調理求

校歌

一、 ひんがしに こじょう 古城いだきて

たたなわる ごうりやう 五稜の丘は

若人の いぶき 息吹に満ちぬ

水上に みなかみ ふるきをたずね

新しき ひかりた 光に立ちて

大いなる ちから 力伸ばさん

二、 さくら花 はな しるしと仰ぎ

友がきの かた 堅く結びて

うち鳴らす じしや 自主の鐘の音

ひとすじに あか まことを窮め

築きゆく りきやう 理想のすがた

ああ とわに は われら栄えあれ



三年A組



思い

出



三年B組

三年C組



の

アル



三年D組

三年E組



バム

修学旅行



疲れをかくす、この笑顔！



「こらっ！1人で目立つなってばー」



みんな、仲良し



りりしい若者たち。楽しい修学旅行です



少しは大人っぽく…。美女がいっぱい



楽しい思い出、できましたか？

中 体 連

野 球 部



う～ん、このフォームノホームランかな

サ ッ カ ー 部



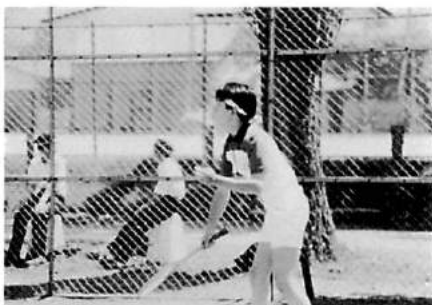
白のユニフォーム、行け行けノ五稜ノ

バ ス ケ ッ ト 部



接戦ノ どっちが高いかな？

テ ニ ス 部



しっかり見て、打たないと…。

柔 道 部



いよいよ対戦ノ勝負はいかに…。



フォークダンス、ちょっと緊張ぎみ…



優勝目指して、がんばるぞ！

文化祭



お母さん達、御苦労様です。

運動会



どっちが、はちまきをとられるかな？



網をくぐって…。さあ、しっかり！



みせます、女の底力……。



はやく、せんべいをとらないと…。

マラソン大会



やっとゴール、あ～あ、水が飲みたい！

勤労感謝の会



温かい感謝の気持ちです

体育大会



“にっこりあいさつ、明るい一日”



がんばれ！ 最後まで走るんだ！

..... 宿泊研修



海を見ながらの楽しい一時ですね



ふう、くたびれた、あと少しで頂上だ

目 次 —「五 稜」25号—

◎ グラビア写真

◎ 巻 頭 言 学校長 寺岡守男 1

◎ 生 徒 会

- 前会長 吉田 勇 2
- 会長のことば
..... 現会長 三好康弘 3
- 生徒会この一年 = 総務局日誌より = 4
- 専門委員会 6
- 部活動 10

◎ 総務局特集 16

◎ 栄誉を讃える 26

◎ 学 級 紹 介

- 1・2 年 28
- 3 年 卒業生寸言・先生のことば 38

◎ 先生寄稿「手伝いの尊さ」..... 教頭先生..... 53

◎ 修学旅行記 54

◎ 文 苑 62

◎ 本年度の歩み 70

◎ 職員住所録 71

◎ 編 集 後 記 72



言頭卷

三つの汗

学校長 寺岡守男

三つの汗、これは相撲の解説者が語ってくれたことです。『相撲に強くなるためには、三つの汗をかかなくてはダメだ。』と言うことです。つまり、一つ目の汗は、一人で黙々とやる準備運動で出す汗であり、二つ目の汗は、相手と組んだ相撲の練習で出す泥まみれの汗。三つ目の汗はひきつづき根気よく練習して出すあぶら汗だということ。三つ目の汗はタオルでふいても取れない汗で、板きれで体をこすって取る汗だそうです。

大相撲の生活や練習を実際に見たことがありますから、正確なことは理解できませんが、その練習のすさまじさが、なにか想像できます。この三つの汗の話を聞いた時、相撲の練習のことよりも、汗は人間としての生き方に深いかわりのあることをあらためて感じさせられました。

自分の生活をふりかえった時、三つの汗といわず、たった一つ目の汗を出しているだろうかと思ってきました。みんなと一緒に力を合わせ努力する。そのことは大変すばらしいことでありますが、それと同時に、自分を見つめ、自分の弱い点を補強したり、いくら何でも、よいところを伸ばすための努力、それが一つ目の汗であります。その汗を大切にしているだろうかということです。

近年、家庭で自分の部屋にテレビを備えつけている子ども部屋がふえてきています。ある調査によると、テレビ付きの個室をもつて

いる生徒の六〇％は、家庭での勉強をほとんどしていません。しかも、朝は親におこされ、家庭での手伝いもせずに一日をすごしています。ありがたうのあいさつの言葉も少く、人間として尊いものはなにかの問いにも、それは、金と答えております。

いかがでしょうか。自ら努力することなく、人から与えられる恩恵になれば、恩恵を受けることを当然と思うようになります。人間の尊いものが失われることになりました。先日テレビで、北の職人で登場した札幌の七四歳の釣竿づくりの名人が、ポツリと言った言葉にひきつけられました。『どんな竹でも曲っている。真つすぐな竹はない。真つすぐにするために、焼きを入れて直す。つまり、火で熱くし曲った竹を伸ばすのが、よい釣竿づくりのコツであるということ。自然のものを、社会に役立つものにするためには、焼きを入れなければならないということです。』

今、だいたいなことは、三つの汗ということよりも、たった一つ目の汗、それが失われてきていることです。釣竿の名人の言葉を借りると、それは、自分への『焼き』それが軽視されていることになりました。竹と人間の体は当然違います。しかし、言えることは、外からの刺激、すなわち、自分の果たすべき責任への努力が失われると内からの思いのままの欲求にふりまわされ、人間としての大切な心が失われるのではないかと思います。人生は日々修業なのです。

任期を終えて

前生徒会長

吉田 勇

早いもので、もう自分の任期も終ってしまつた。しかし、それが充実したものであつたかは、疑問である。それは最初に自分が目指したものは、大きくかけはなれていたからである。

「生徒の学校生活を手助けする。」というのが目標だつた。しかし、生徒会の仕事といえは、行事ばかりで、独自性のある文化的な活動は、ほとんど出来なかつた。また、生徒たちも保守的になつてしまひ、自分たちから進んで意見を發表しなかつたと思う。これが、今期の生徒会の特徴だつたように思える。

この原因は、全部我われ生徒会にあると思う。生徒会から、保守的になつてしまつたのである。失敗はしないようにと、それだけを考え、先に進もうとしなかつた。また計画的な活動ができず、独断と偏見で仕事を進めてしまひ、多数の不満も出た。また、生徒会内の協力・団結も少なかつた。

生徒会とは、生徒から意見を聞いて、実行したり、改善したりするのが理想的だと思う。しかし、新生徒会のみなさんは、我われのようにはならず、しっかりとやってくれると思います。今後も頑張つて下さい。





向上への第一歩

現生徒会長

三好康弘

今回、私は会長に任命されましたが、今その責任の重さと仕事の忙しさが身にしています。

私が会長になって早くも半年たちましたが「皆さんと住みよい学校を作る。」という目標に少しでも近付いたのか疑問です。

今年度のスローガンは「開拓と向上」でしたが、皆さんは何を開拓し何を向上したのでしょうか。昨年の四月皆さんが、入学または進級した時、今年度はこうしようという目標があったと思いますがその目標を達成することができたでしょうか。無事、達成できた人もいるでしょうか。できなかった人もいますでしょう、でもできなかった人も目標に向けて努力したことでしょう。

努力するというのは良いことだと思いませんか。努力することとは、自分が決めた目標に向けて向上することだと思えます。今以上に、今以上に努力していくと最後には目標にたどりつきます。

皆さん、大きな目標をもって下さい。そしてその目標に向けて努力して下さい。私はそれが向上への第一歩だと思います。

私は会長としてのあと半年を、皆さんと共に目標に近づくために努力したいと思います。皆さんも楽しい学校生活を送れるように努力しましょう。

生徒会この一年

総務局日誌より

みんなはりきって練習してました。

〔六月〕

4日 第25回校内体育大会

成績はどうでしたか。良くても悪くてもベストを尽くせばサイコーの成績だと思えます。

11日 生徒大会

専門委員、代議委員、総務局。活動内容などを話し合いました。

16日 中体連陸上競技大会

日ごろの練習の成果を出し合い、みんながんばりました。もちろん応援も……。

22日 第八回校内マラソン大会

くもり空でしたが、みんながんばり、新記録も生まれました。

〔七月〕

16日 中体連七種競技大会

この日のために練習してきた選手のみさんの晴れ姿。がんばって下さいね。

26日 第一学期終業式

待望の夏休み。まってましたとばかりには

「一学期始業式からもうそろそろ、一年がたちます。みなさん楽しかった事、くやしかった事、また、後悔していることなど、さまざまな思い出を胸にこの一年を送ることでしょう。しかし、後悔していることをそのまま来年に持ちこすのではなく、ここで十分反省し、来年にそなえてもらいたいと思います。」

★昭和60年度前期生徒会役員

会長 吉田 勇(3)
副会長 笹田 泰賢(3) 寺沼 知恵(2)
書記 下河内綾子(3) 樋本 博(2)
会計 山野 幸江(3) 山根慎太郎(3)

〔五月〕

13日 修学旅行出発

小学校を入れて2回目の修学旅行。なんてったって最高の行事です。ステキな思い出、作って下さいね。

28日 体育大会練習開始

〔四月〕

6日 入学式・第一学期始業式

いよいよ新学期。気持ちも新たに一年のスタートです。

9日 新入生を迎える会

先輩達と初顔合わせ、一年生はドキドキ「こわい先輩いるかな?」

しやぐ人も通信簿を見てガツクリ…?

【八月】

21日 第二学期始業式

一夜づけで宿題をやった人、真つ黒に日やけた人…。夏休みは楽しかったようですね。

【九月】

3日 校内水泳大会

今年はプールに入るのがおそく、あまり練習できませんでした。がんばりました。

10日 生徒会大運動会

2日延期でその上、少し雨に降られました。がどうやら成功。係のみなさん御苦労様でした。

17日 生徒会役員立会演説会

少々、クサイことを言つてた人もいました。が、みんな熱心に演説してました。

27日 校内弁論大会

五稜三訓についてが多かったようですが、その他、いじめや人種差別等、思わずうなずいた内容もありました。

【十月】

3・4日 文化祭

文化部のみなさんのデビュー(?)の場でもある文化祭。とても楽しかったですね。いくつまわりましたか。

★昭和60年度後期生徒会役員

会長	三好 康弘(2)
副会長	樋本 博(2)
書記	白鳥 清志(2)
会計	米田 朋加(2)
	田中健太郎(1)
	萩原 りさ(1)
	斉藤 敬子(2)

29日 校内サッカー大会

寒い外で一生懸命走り回った男子、周りで応援していた女子、結果は気にしませんでやってましたね。

【十一月】

1日 校内バレーボール大会・綱引き大会

25日 勤労感謝の会

ひごろお世話になっているおじさん、おば

さん。今日は感謝の気持ちでこの会を開きました。ありがとうございます。

26日 学級読書会

読書の秋……。みんなまじめに読んでました(んだかどうか)。読書好きになれましたか。

【十二月】

24日 第二学期終業式

あつという間に(?)二学期も終わってしまいました。充実した学期でしたか。

【一月】

20日 第三学期始業式

いよいよ3学期。といつても2ヶ月と少ししかありません。各学年のしめくくりです。しっかり、復習しましょう。

【三月】

12日 卒業生を送る会 (予定)

15日 卒業式 (予定)

23日 昭和60年度 修了式 (予定)

専門委員会



生活委員会

今後の生活委員会へ

今後の生活委員会では、残念ですがいくつかの「問題」を残してしまいました。それは、学校生活の中で今、最も充実させて行かなければならない「あいさつの徹底」です。どうすれば徹底し、充実できるか。まずは週番の朝の声掛けから実行して見ました。しかし、まだ本当に徹底されているとは言えません。髪型・服装の違反者、朝の遅刻者などがまだいて、規則正しい生活が送られていないと言う問題もあります。生活委員一人一人が、自覚を持って積極的に活動し、今後の委員会では問題を解決する良き改善案を考え、それを実行するよう努力して下さい。

今年生活委員会として初めての試みの仕事をしました。運動会修了後のトイレ掃除、文化祭での手伝いなどです。どちらの仕事もみんな協力し、自分たちの手でやり遂げました。これからも引き受けて学校行事、学校生活向上のために、委員自身自覚を持って頑張ってください。今後の生活委員会に期待します。

応援団

我ら応援団！

応援団の練習は、三年生の修学旅行が終わった五月中旬から、中体連が始まる七月中旬まで続けられた。

練習場所は、おもに美術室前だった。

そこで毎日、「五稜！ガンバ！ファイト！勝利！……」という声と、ふえの音と共に練習が続けられていった。だが、振り付けをなかなか覚えられない者もいた。そしてなによりも応援には欠かせない、大声を張りあげない者が多かった。それらの事が応援団首脳陣の大きな悩みだったと思う。

応援団の応援は二回あった。一回めは六月の中体連の陸上競技大会で、二回めは中体連の各部の大会で、応援したのは野球だった。どちらも炎天下で大声を出さなければならなかったのでとてもきつかった。

今、考えてみて、応援団を通して、向上したことは、団結した精神が養われたということだと思う。

(柴田・赤塚)

学習委員会

遊んでばかりいないで、
たまには勉強しなさい!!

学習委員会での仕事は、朝自習、教科連絡、自習時間がおもな仕事だった。なかでも朝自習の実施がとてめんどくさかった。委員会がおわると朝自習をつくり、朝はプリントを配ってみんなを座らせる。朝自習なんてやるもんじゃないとこのときばくは思った。教科連絡、自習時間の指導っていうのは、たいしたことをやらずほとんどやっていない状態でした。

初めてばくは学習委員になったが、その任務を終えた今、なんで学習委員なんかやったのか後悔しています。もう二度やりたくないと思っています。

これから学習委員をやってみたいなあと思っている人、この楽しさを一度味わってみるといいですよ。きっと自分のためになることがあると思います。そして、より活発な学習委員会をし、明るい学校生活を築いてください。心から祈っております!!

(後藤 記)

文化委員会

活動をふり返って

前期、文化委員会では担当の山岸先生のもと、修学旅行、運動会、文化祭などの学校行事をおもな仕事として活動しました。5月の修学旅行では、活動は三年生だけでしたが、図書委員会と協力して、旅行記を各クラスで分担して製作したり、文化祭で上映するスライド用の写真をとったり、ナレーション用の生徒の生の声を録音したり、いろいろと活動しました。運動会では、本部席で、点数計算をしたり、点数を掲示板に掲示したり、積極的に総務に協力しました。文化祭では、修学旅行でとった写真や録音テープを利用して、スライドをつくり上映しました。各クラスでの活動は、学級新聞を班員と協力して製作したり、校内掲示などをしました。前期は、行事が多かったため、国際交流としての活動をしなかった。後期の活動は、ぜひ国際交流に力をいれてほしい。

(前期文化委員長 3・A 吉田)

保体委員会

保体委員の仕事

年中行事を行う委員会の中で保体が中心となっていく行事は次にあげるようなものがあります

春・体育大会 マラソン大会

夏・水泳大会 秋・運動会

このように、あらゆる行事があり、これをこなすためには、委員全員が、協力し合わなければいけないのです。私達が、これらの仕事をきりぬけてきたのも、協力し合った結果だと思っています。

更に今後の課題として、私達が徹底できなかった、清潔検査を、ぜひ徹底して行なって欲しいものだと思います。

今後保体委員になる人は、このようなことを心がけてもらいたいと思います。

(沼田記)



給食委員会

給食委員になつて

今年の給食委員会は、とても積極的に活動したと思います。今までになかったことまで考えて給食委員の新しいイメージをつくりあげ、活動の場を広くしたのは、だれもが感じたことでしょう。

しかし、「白衣の着用」については問題があります。白衣をなくするクラスが多数あったためです。これは、給食委員の生徒がきちんと指導しないのもありますが、給食当番になった人たちにも問題があると思います。同様に白衣を着ずに給食をとりにくる生徒もいます。この「白衣の着用」だけが今年やりとげることのできなかったことでしょう。

来年度、給食委員になる人達には、今年達成できなかった「白衣の着用」を実現してほしいです。

給食委員は、実にやりがいを感じる委員です。

(長川 記)

整美委員会

今年の活動

「進んで清掃、きれいな学校」

この五稜三訓の一つを実現し、さらによいものにするために、今年の整美委員会としてはまずまずの活動をしたと思う。

その一つでもっとも大きな仕事だったのが朝清掃である。これは毎朝きめられた時間にげんかんの清掃をするわけだが、あまりに時間が早すぎたので、それを理由にさぼったやつがいるなど、完べきにできたとはいえない。が、まあまあの出来だったと思う。それともう一つ、全校生徒の協力もあり朝のモップがけが始まるなど、五稜中の校舎はとてもきれいになったと思う。これからもずっときれいな学校を保つようにはやっぱり、校舎を汚さない“という気持ちで、一人一人がほんのすこしでも持つてくれたらと思う。

それじゃあこれからもみんな、整美委員会を中心にがんばって下さい。

(小松 記)



図書委員会

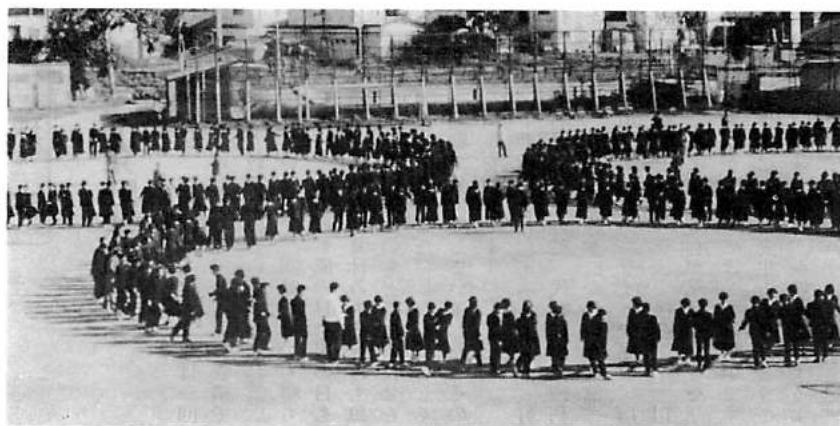
『積極的な図書館利用を』

私が一年生の四月に図書委員になって初めて感じたことと、今思っていることが全く同じで、図書館利用者が全校生徒のほんの一部であるということです。事実、何人かの友達に読書が好きであるかを聞くと、ほとんどの人が首を横に振ります。同じ内容の本だとしても、書店などの本ならまだしも図書館の本は、古いし読みずらそう、というイメージか、いっそう図書館へ運ぶ足を重くしているのではないのでしょうか。

確かに、図書館の本は古いものの方が多いですが、毎年必ず新刊が入るし、数千冊もの本があるのですから、「読んでよかった。」と思う本がたくさんあるはずですよ。

また、読書によって国語の力がつくのは事実です。これぞ一石二鳥ではありませんか。読書をしてマイナスになることはありません。必ず自分にとって何かプラスされます。『国語のテストの点数で悩んでいる君、読書してみない？』

(大島 記)



放送局

こちら『GHK』

ぼくたち放送局は、日ごろから、いろいろな面で活躍してきました。

みんなは放送局の影の努力を知っていますか？ たぶん知らないと思います。

生徒会の行事には、必ずと言っていいほどぼくたちがひそかに、活躍を続けています。

それに、朝の集会や、放送局独自の仕事を加えると、生徒会活動とはほぼ互角の活動になると思います、その、放送局に入ってもう早くも一年がたちました、学校の使者、いや、縁の下の力持ちとでも言うのでしょうか。

今は、局員も少し増え、仕事も少しは楽になりました。これからは、昼の放送などに自主番組を充実して、よりよい校内放送になるように、放送局員全員で努力したいと思っています。

(星野 記)



部 活 動



野 球 部

無念不発野球団

我が野球部は、二年前は三位、昨年は一回戦負けという、めでたくて、ひさんな成績でした。今年は人数不足のせいかわ弱小野球部、といわれ続けていたので一回戦だけでも勝ちたいなあと思ひ、雨の日も嵐の日も嵐の日も日曜日祭日も春休みも夏休みも冬休みも毎日、石津先生、吉田先生のもとで血のにじむような練習をしてきました。しかし、おしくも(?)一回戦で負けてしまいました。そのときのメンバーを紹介します。

ファースト西沢(まじめ)セカンド本間(好打)サード石黒(二年の時、代打に出て勝利をとった男)ショート藤本(かれない守備)センター長川(幸運の男)ライト矢尾板、川村(地道な練習)キャッチャー後藤(?)以上八人です。みんなとてもがんばりました。高校へいってもがんばってほしいと思います。最後にお世話になった先生方ありがとうございました。後輩の諸君、来年は優勝するようまじめに練習してほしい。(後藤 記)

サ ッ カ ー 部

優勝ノそして苦戦 だが夢はどこまでも

優勝。ぼくたちはこの二文字をめざし一年のときから、練習にはげんできた。しかし、その成果はすぐに出ませんでした。一、二年の時は、我々のなつとくのいく結果は出ませんでした。そして雪解けをまつた。

春が来て、ぼくたちは三年生になり、サッカー部として活動できる期間はたった半年となった。我々はこの半年の間に今までの成果を出さなければならなかった。まず今年から始まった春期大会でなんと優勝してしまつたのである。この波にのつて中体連も制覇しようとはりきつていた。しかし思うようにはいかなかった。第一回戦、相手は優勝候補必頭の銭亀中学校。思つたとおり、苦戦をしいられ、勝負はPK戦へともちこまれ、三対四で負けてしまい、中体連優勝の夢は、音をたててくずれさつてしまつた。このくやしさをいつまでも忘れず、我々のはたせなかつた夢を實現してほしいと思う。

(高村・沼田 記)

男子テニス部

もつと練習を

この三年間、ふりかえってみて僕が感じたことは、前の部長もいつていたのですが、練習の甘さ、これは練習中にふざけてみたりさぼってみたり、これが今年の中体連の結果ではないでしょうか。

つまり練習は、先生がいったことをやるのはもちろん自分でこれは、試合に役に立つんだという、練習方法を見つけてもらいたいと思います。また、これからの試合をする重要なことといえばやはり、二人のチームワークそして、「落ち着く」ことだと思います。

とにかく試合は、納得のいく試合をし、悔いの残らない試合をしてもらいたいと思っています。さて、来年はかならず良い成績を残して来てください。(優勝・・・)

本当に、三年間、顧問の石名坂先生、小林先生、そして後輩諸君、どうもありがとうございました。とても楽しい三年間でした。

(中村 記)

科学部

科学部の灯を消すな!!

今年度、我々科学部はあまり部活動らしい活動はできませんでした。

部員数は、現在三年生が八名、一年生が四名と、決して多い数ではありませんがそのぶん先輩、後輩の仲が良くまとまりもありました。しかし、部員数が少ないため、時にはほんの二、三人で部活をやっている事もありました。このような事があって、今年の大きな活動といえば、文化祭の時の実験ぐらいでした。でもそれだけに、文化祭前は遅くまで残って、実験の準備や、掲示物を書いたりしてみんな一生懸命やっていたと思います。

文化祭の時も、けっこう人が来てくれて、一応成功して、本当に良かったと思います。来年は三年生が抜けるので、部員が四人だけとなってしまうし、科学部が無くなり郷土部ができるという話もありますが、なんとか、科学部を続けていってほしいと思います。

(安田 記)

女子テニス部

欲しかった優勝旗

三年間テニスを続け、振り返ってみると、わりと充実していたような気がしました。

毎日の練習。決して楽な内容ではなかったにもかかわらず、みんなで次の試合に一つでも多く勝ち進んでいくことを考え、お互いにライバル意識を持ち、一生懸命練習に取り組んできました。そして、最終目標は、中体連団体戦で優勝旗を持ち帰ることでした。

中体連の団体戦では、みんなの力を合わせがんばったのですが、準優勝という成績で終わってしまいました。(残念……)しかし、個人戦では三位以内に二チーム入るという好成績を残し、中体連の幕は閉ざされました。

今回、このような成績が納められたのは、きつと私達が先生に教わった「素直にならなければならぬ」とのお言葉を忠実に(?)守り、根気強くなればよかったと信じております。最後に、今まで指導してくださった先生方に感謝し、今後の後輩の活躍に期待ノ

(葛西 記)

水 泳 部

もっと好成績を

今年の水泳部は去年とくらべ、部員が約30名になり、活動が活発になった。

今年の練習は、プールに故障があり、練習時間が足りなかったが、全員がその短時間の間で自己の課題をもっとしっかりやっていた。五稜中学校で行なわれた中学校体育大会では、練習のかいあって部員のほとんどが入賞という好結果だった。

入賞できなかった人も、自分のベストタイムを上まわるよい記録を出すことができた。最後に一・二年生に、プールが使用できるまでの間、自分でトレーニングしてもらいたい。

石津先生、杉谷先生どうもありがとうございました。

(村井 記)



バレー部

三年間をふり返って

我々バレー部は、中体連などに向けて、顧問の先生などといっしょに毎日、一生懸命練習してきました。それに、今年は、比較的先輩、後輩の仲も良く、チームもまとまっていました。しかし、中体連では、一回戦目に、附属中とあたり、おしくも、あともう一步というところで敗れてしまったが、敗者復活戦で大川中とあたり、なんとか勝つことができ、二回戦へ進むことができました。そして二回戦目は、湯川中とあたった、さほどの力の差がなかったが、残念ながら敗れてしまった。そこで、今度の中体連の時には、ぜひとも二回戦へ進めるよう、最後まで、あきらめずに全力をつくしてがんばって下さい。

それから、大坂先生、安井先生には、今までいろいろと指導して下さいありがとうございました。これからもバレー部をよろしくお願いします。

(松橋 記)



スキー部

はるかなるスキー部

今のスキー部は、男子6名というなんとも少ない人数です。

このクラブの歴史は、昭和四十年にたった一回だけしか優勝したことがありません。

今大会もまた、団体も個人戦も、あまり、良い成績では、ありませんでした。

ところで、このスキー部の練習内容というところ、まず中心となるのは、ポールくぐりで、その他に内まわりターン、外まわりターン、ステップターンなどたくさん練習をしています。そして、この練習で二年生も、我々三年生にまさるくらいの力をもっています。です、これから後輩たちは、上位をめざすように努力してください。それから、このクラブは、一年生からでも、大会にでれますので、女子でもだれでもよいから、どんな人部してください。

(THE・END)

(前田 記)

写真部

活動を振り返ってみて

今年度の写真部の活動は、部員数が減ったわりには活発に活動していて大変よかったと思います。

文化祭にしても、いままではみんな納得した作品ができず、とてもあわてていましたが、今回の文化祭は渡辺先生の注意を何回も聞いていたせいか、ほとんどの人はあわてるふうもなく、2枚以上展示したので、昨年度よりも多く「写真の部屋」に飾ることができました。

あとの大きな活動といったら、いろいろな行事を写真にとってこの「五稜」にのせることとです。それに対して、今年は去年の「五稜」より多くの写真をのせることができました。(去年はほとんどの行事が雨でつぶれたためにのせることができなかったのです。くやし！)来年の「五稜」にも、たくさん写真がだせるように後輩たちに頑張ってもらいたいです。

写真部は永遠に不滅です！ (小林 記)

卓球部

「何事もやる気だ！」

今年の卓球部は、昨年度三位の経験者が三人もいたのですが、おしくも昨年以上の成績をおさめることができませんでした。

少し悔いが残りますが、新キャプテンを中心に一生懸命頑張ってください。

次にやる気をおこすということは他人ではなく自分自身でなければならぬと思います。負けた悔やしさはだれでもあると思います。僕も一年生の新人戦から試合に出させてもらいましたが何度も悔やしい思いをしました。この思いは、やる気をおこさせ、いくつもの事に「プラス」になることでしょね。さあ、今からでもおそくない。何事もやる気だ！

(佐々木 記)





柔道部

これが柔道部だ！

四月、新入部員が入るが、いまいち部長に統率力がなく、まごついてろくに練習も出来ずに他校に差がつく。

五月、いよいよ本格的な練習に入る。この段階で基礎をマスターできずやめる人多数。

六、七月、数回練習試合をこなし、他校の実力を知り、ターゲットをしぼる。たいていこの段階で最高潮に達し、中体連に燃える。

八月、他の部は調整に入るが、我々は猛練習である。選手の緊張をほぐすため、練習後はギャグの連発、この時期が充実して楽しい。中体連、五校は名が通っているため、デカイ顔で歩く。相手はビビって結果は良い。

九、十月、中体連の波にのり、新人戦の練習に励む、この時期、段や級を取るのが多い。十一月、はつきりいつてこしぬけた。部員はよく休むし、畳が冷たいから、やる気が出ないし、なんてなったって寒い！

これが我々柔道部の実態である。後輩のみならず、次は優勝をねえ！ (吉田 記)

バスケット部(男)

「伝統」に負けた中体連

今年の中体連もまたまた、悪い伝統を受けついでした。

今年は、新人戦でベスト8に入った勢いで今年こそはと誰もが思っていたはずだった。しかし、結果はそれに反して最悪となつてしまった。原因はいろいろあったと思うが、最大の理由は練習内容にあったと思う。

一、二年諸君には、なんとしても中体連に勝ってほしい。そのためには、毎日さぼらずもつと中味のある練習が一番だと思う。最後に、顧問の石井先生、三河先生、もうちょっと練習に出てほしかったけど、三年間お世話になりありがとうございました。

嗚呼！！
夢幻優勝メンバー

4	須田	雅樹
5	嶋田	竹寿
6	黒木	政村
7	黒木	敦志
8	山根	雄二
9	山根	慎太郎
10	吉小	幸太
11	小松	司議
12	樋口	哲哉
13	田畑	誠司
14	佐川	木善
15	石井	三井

(顧問)

(須田 記)

吹奏楽部

夢はふくらむ吹奏楽

あつ、という間に、三年間がすぎてしまいました。今年は新入部員を二十五名も迎え、総部員数は六十名の出発でした。

今年は活動内容もかなり充実してましたし昨年にひきつづき念願の北海道吹奏楽コンクールで金賞を受賞することができました。ここまでがんばってこれたのも部員一人ひとりのやる気と、大森先生、大久保先生のご協力があったからでしょう。さすがにコンクール一ヶ月前となるとみんなの目は燃えてたし、パワーアップのため合宿もしました。その努力の結果、この賞がとれることができたのです。

そこで後輩のみなさん、今後また、いろいろな行事がありますが、忘れてならないのはい日一日の地道な練習と、先生を信じてとことんついていくという気持ちです。そして来年度もどうか良い成績を残してください。

最後に、お世話になった大森先生、大久保先生、ありがとうございます。(浜上 記)



バスケット部(女)

三年間を振り返って

「負けた試合が多かった」これが三年間を振り返った中で、一番心に残っています。試合に負けたその時から、今度こそはノと思い練習をしてきました。練習の中で、先生の教えてくださったことを、すぐ理解することができず、おこられたことが何度もありました。それでも私達は、くじけずがんばってきました。

中体連では、今までの練習の成果を十分に発揮することができずに、負けてしまいました。が、私達にとって良い思い出の一つになったと思います。

最後になりましたが、石井先生、三河先生には、大変お世話になりました。本当にどうもありがとうございます。

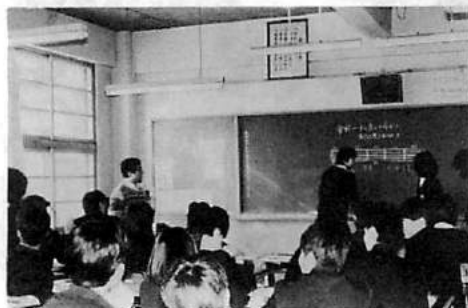
4	高	田	川	者	田	川	吉	沼	田	合	沢	石	谷	和	宏
5	北	渡	町	豊	中	太	中	佳	寺	浜	盛	森	中	福	大
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	マ	ネ	ジ
													コ	チ	三
													監	督	河
													コ	チ	井

(北 記)

総務局特集

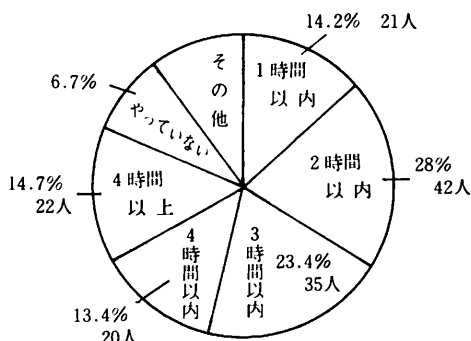
五稜中生診断 & 生徒会座談会

PART 4



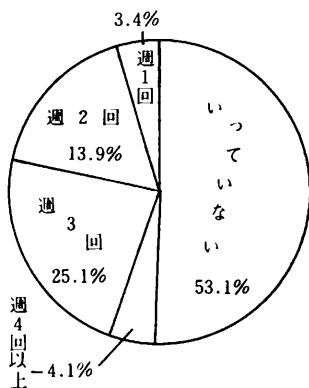
A 家庭学習について

問1 あなたは1日何時間勉強していますか



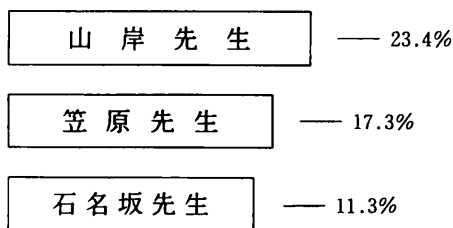
勉強の頂点をめざし多い時間やっている人もいれば、少ない人もいる。しかたないのかな。それにしても、やっていない人は、よほど授業中、しつかり、やってるんだろうな。

問2 あなたは塾に行っていますか行っている人は週に何回ですか



やはり半分ぐらいだな。週3回が多いが、何年後かに、毎日行くようになるのかな、そんなことになったら、塾じゃなく、もう一つの学校に行っているみたくなるのかな。

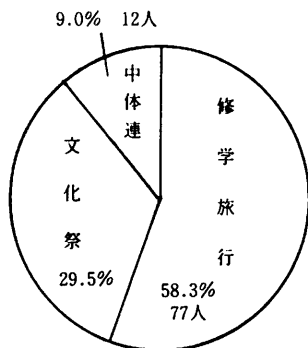
問3 中学校生活で一番印象に残った先生はだれですか



個性的な先生がやはり印象に残るんだろうな。山岸先生は、しぶいヘアースタイルだし、笠原先生は、独特のスローなテンポを持っているし、石名坂先生は、さんだるに孫の手。

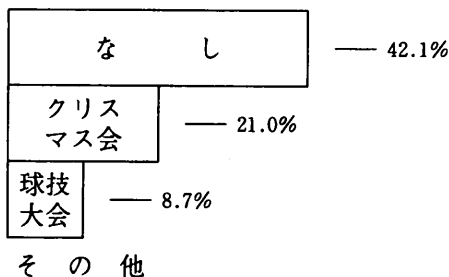
B 校内生活面

問1 この1年間で一番印象に残った行事は何ですか



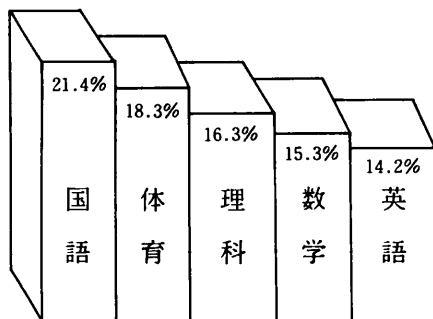
修学旅行は、一生に残るかもしれないからね。文化祭は、生徒全員の協力で、すばらしかった。中体連は、今まで部活で練習した結果だったから、泣いた人も、嬉しい人も。

問2 生徒会で一番やってほしい行事は何ですか



球技大会は実現したけど、クリスマス会は、ちょっと難しいと思うよ。「なし」の人が多くのでみんなは、生徒会の行事に満足しているんだろうな、やっててよかった。

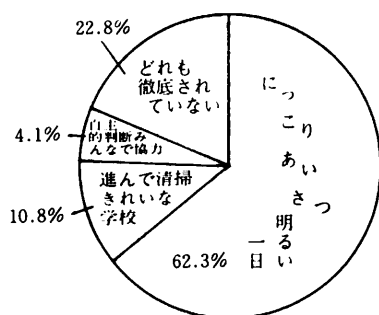
問3 あなたの好きな教科を教えてください



国語が好きだとは、以外だな。やっぱり体育が好きなのはまだまだいるね。英語がまあまあだな、国際社会の現代だからかな。

問4 昨年定められた「五稜三訓」

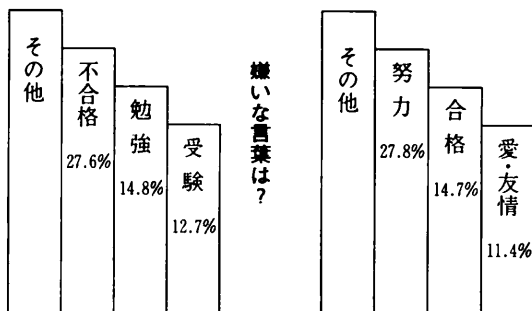
で一番徹底されると思うものは何ですか



さすがは、実行しやすいように作ってあるだけはあるが、「自主的判断みんなで協力」は、難しいのかな。いつも五稜三訓を守ろう。

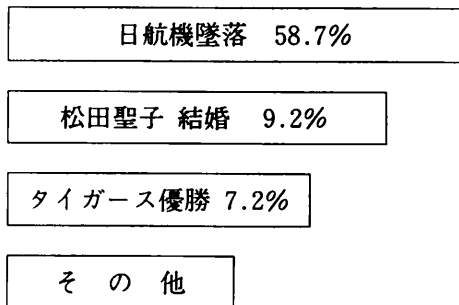
C 個人意識

問1 あなたの好きな言葉は？



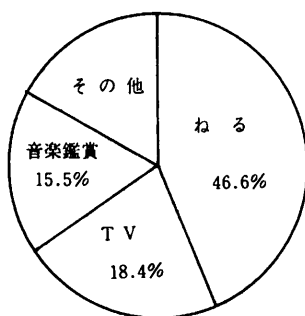
好きな言葉で努力が出ている。五稜の生徒は努力ばかりしているのかな？
三年生だけあって、受験のことばかり、わかるかよこの気持ち……。

問2 一九八五年を象徴した出来事は？



日航機墜落事故、これはわかる。松田聖子結婚は何を考えているんだ。なんてったってタイガース優勝。やはり85年は、竹村先生のスクーター事故しかない。

問3 あなたは余過をどのように過しますか？



問4 あなたは一日すいみん時間を何時間とりますか？

- a. 9 時間以上 8 %
- b. 7 時間以上 49.7%
- c. 5 時間以上 31.4%
- d. 5 時間以内 10.8%
- e. その他

問5 あなたはテレビを一日何時間見ますか？

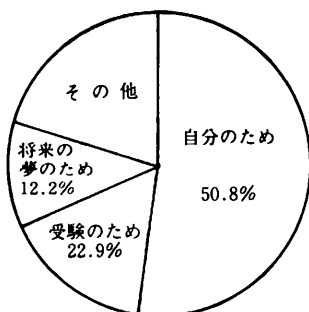
- a. 3 時間以上 27.4%
- b. 3 時間以内 22.2%
- c. 2 時間以内 33.9%
- d. 1 時間以内 19.2%
- e. 見ない 16.3%

やはり、寝る子はよく育つという言い伝えは、残っていましたね。
T V、音楽鑑賞は、やはり現代人として、当然というところですね。

平均的に7時間ぐらいだろうが、5時間以内の人は、よく体がもつと思う。9時間以上の人は、寝すぎじゃないかな。

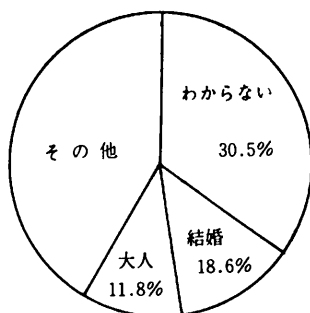
T Vは、2時間ぐらい見ていれば、目は悪くならないんだ。
教育T V以外は見ないようにしよう！

問6 自分は何のために勉強している
と思いますか？



やはり現代で生きていくには、勉強が大切
と
思っている人が多いので、日本の将来は明
るい!!

問7 あなたの将来の夢は？



わからないという人が多いが、小さい時に
大きくなったらなりたいものや、やってみた
いことがあったんじゃないかな？
将来の夢は、ぜひ大きくもってもらいたい。

結果を見て

今回のアンケートは、対象を3年生にしぼり、実施してみたのですが、言えることは、毎年たいした変化が見られないということです。まず、家庭学習についてですが、さすがに3年生だけあって自分のペースで維持しているようです。校内生活面のなかで一番印象に残った行事の中ではやはり修学旅行が半分以上で3年生らしいですね。そして、文化祭ではサテライトが印象的だったとか！

まあとにかく、大勢の人が楽しんでるからいいのでは……？ 個人意識の方では「愛・友情」などがあつてちよつとかつこつですね。五稜の生徒は仲良しだから、いじめなんてありません。（自殺者なんていないもん）

全体的に、わりとまじめでしっかりして自分のことを考えて生活している人が多いようです。まあ、変にグレたり、先生に反抗したりする人がいないから Very Good ではないでしょうか？

（文責 山、山野）

生徒会座談会

in'86

《テーマ》

生徒会の動きを、どのようにして
生徒に理解させるか。

《出席者》

司 会	吉 田	勇	三 樋	好 本	康	弘
(旧)	笹 山	田 根	萩 齊	原 藤	り 敬	博 さ
	山 山	野	米 白	田 島	朋 清	子 加
		幸				志
		江				

司 会

それではこれから生徒会役員の座談会をはじめます。
今日のテーマは「生徒会の動きをどう生徒に理解させるか」ということです。少々、難しい内容かもしれませんが、みなさんに思ったことを何でもいから言ってほしいと思います。まず、このテーマを解決してゆくにあたって、討議の柱を二つに分けたいと思います。

一つは、五稜三訓の徹底を今後どのようにするか。

二つは、生徒会主催の行事を通して、生徒とのコミュニケーションをどのように深め、同時に生徒達に生徒会の動きをどのように理解してもらうか。

ということですが、この二つの討議の柱から、何とか自分達なりに結論を出してみたいと思います。まず初めに、五稜三訓の一つめ「につこりあいさつ明るい一日」からみなさんに発言をしていただこうと思います。

山 根

それについては、毎朝、先生方を初めとして、生活委員が、登校してくる生徒達にあいさつをしているので、形の上では徹底されていると思います。

司 会

「形の上では」というのは、どういうことでしょうか。

山 根

つまり、そのあいさつをいかに、生徒達が真面目にしているかということです。

笹田

それについては、僕も同様の意見です。先生がせっかく心のこもったあいさつをしてくれても、声が小さかったりして、なにか変なものになると思います。また、校内での会釈も、あまり徹底されてないと思います。

橋本

僕は、平均的なレベルから考えると、先生方もよく言うように、あいさつは立派だと思います。最近では更にあいさつというものが日常化されたような気がします。
(ここで全員うなずく。)

司会

あいさつについては特に問題はないようですが、改善するところはあります。

三好

今のところは特にありません。

司会

二つめにいきましょう。「進んで清掃きれいな学校」についてですが、これについて発言して下さい。

山

朝の玄関のモップがけや、整美委員の清掃など、良いことだと思えますが、どれをとっても先生の力が入っているのが気になります。

米田

そういうのも生徒会が主になって実践してゆけばよいと思います。そうすることによって生徒は生徒会への努力というものを感じて少しは同情というか、理解してくれると思います。

笹田

し、また、生徒がよごした所を先生に掃除させるのはちょっとおかしいと思います。

司会

たとえば、生徒というのは、同じ身分の生徒に命令されてものにもしないけど、先生だったらするようなどころがあると思うんです。ですから、そのところをどうするか、つまり生徒会が、どれだけ生徒への信頼と統率力をもつかということが、この問題だけでなく、すべての問題につながると思います。

橋本

結論につながる糸口が見えてきたようですが他に意見ありませんか。

斎藤

三つめの自主的判断みんな協力と話が混ざってしまいそうですが、先生に言われてやるのではなく、学級などで、自分たちから進んで掃除をしようという話をもちかければ、みんなもやる気になってくれると思います。たとえば、最初は、誰にも気づかれない小さな活動でも、生徒が見ているうちに、「自分達もやらなくては」という義務感をもつと思います。その輪がだんだん広がって、生徒の中に、「よごれたら清掃は当たり前、よごすのはもつてのほか」という意識が出来てくると思います。

いきなりとはいわず、じよじよにやるのが大切だと思います。それによって信頼感も増すと思います。

司会 新総務局としては、今後どのような活動をするつもりですか。

三好 校内清掃の徹底、これは整美員と協力して進めていきたいと思えます。あと、清掃に関する標語、運動などを五稜三訓とは別につくって、生徒の清掃への関心をより深めてゆきたいと思えます。

司会 それでは三つめの自主的判断みんなで協力について、意見がありましたらすべて下さい。

山野 自主的判断というのは、これから社会に出ようとする今、非常に大切なことだと思ふのです。中学生になれば、すべて自分で判断して、行動することが大切で、それがすべての基本になると思ふます。

萩原 たとえば運動会を例として、我われ総務局が原案を出しても、それがそのままどつてくるというのは、少しおかしいというか、つまり自主性というのが足りないと思ふます。よく運動会はおもしろくなかったけど学校が休みだからよかったという意見を耳にしますが、それなら自分達でもつとおもしろく工夫した意見を出せばよいと思ふます。本当は、良い意見をもっているのに発言しない人もいるし、また、そういう人は、発言したくても、周囲の雰囲気でもどうしても発言しにくくなると思ふます。だから、そのような雰囲気をなくして、人にまどわされないようにするのが大切だと思ふます。

山野 自主性というのは、やはりその雰囲気が必要なポイントになつてくると思ふます。一人が思い切つて発言をすれば、みんなもやりやすくなるだろうし、また、学級単位だけでなく直接生徒会に意見を言つてもよいし、生徒会も、それを受け入れる体制というのは、ほとんどないに等しいと思ふます。

山根 我われ総務局で生徒の自主性を養うというのは、はつきりいつて不可能だと思ふます。しかし、それを手助けすることは、生徒会の役目だと思ふのです。だから、これから総務局というのは、気軽に意見をきき入れてくれるような所になりたいですね。

司会 もつとオープンにということですか。

山根 オープンというと、何か混雑しそうな感じがするので……。

斉藤 総務局でそういったものを受け入れやすくする機関を作るとか。

司会 たとえば、意見箱とかですか。

三好 自主的判断みんなで協力については、分野が広すぎて、こゝで解決というのは無理だと思ふので、新総務局ではそれについて、これからも追求してみたいと思ふます。

司会 この問題は、これからの総務局にとって、大きな課題の一つになると思います。

司会 それでは討議の柱その2として、生徒会主催の行事を通して生徒とのコミュニケーションをどのように深め、理解してもらうかということですか。

斉藤 生徒会を理解しているというか、興味のある人って、結構いると思います。

白鳥 ぼくは一部を除けば、全くいないに等しいと思います。

司会 それが生徒とのコミュニケーションのさまたげになると言いたいんですか。

白鳥 やはり興味のある人のほうがよいと思いますが。

司会 行事をもっとおもしろくして生徒の感心をよせるとか。

笹田 確かにそうですが、それだけではバランスがくずれるのではないのでしょうか。生徒会というのは、文化的を前提とした楽しい行事というのを作らなければならないのではないのでしょうか。

米田 同感です。たとえば、生徒を引きつけるために、秩序をみだ

した行事をすることはあまりよくないと思います。ここは学校ですし。

三好 よく生徒がTVでやっているようなことをやれ。行事はおもしろくない。といいます、そんなことは無理だと思いが、それをやらないからと言って、コミュニケーションはとれないとは限らないと思います。

山 生徒会の企画力も重要ですね。マンネリではおもしろくないです。

白鳥 やはり一生懸命にやっているという姿を見ると生徒は信頼し理解してくれるのではないのでしょうか。

司会 コミュニケーションの場合はどうでしょうか。

萩原 さきにも出たとうり、総務と生徒との距離をなくする、ということにつきます。そのためには、意見を取り入れやすく、大きなことでも小さなことでも対応してゆくことが大事だと思います。

司会 いろいろありましたけど、言えることは、生徒が生徒会への特別な意識をなくすることによって、とけこみやすくなるのではないのでしょうか。完璧な結論は出ませんでした、これで座談会を終わります。



栄誉を讃える

【体育部門】

走高跳

第六位 木村 依子

◎柔道大会（中体連）

団体 二位

個人の部

三年の部

中量級

第一位 吉田 勇

第二位 泉 仁

二年の部

中軽量級

第三位 村田 秀人

中量級

第二位 斉藤 人

渡島支庁大会

個人の部

吉田 勇

全道大会

個人の部

中量級

吉田 勇

◎学校通信陸上競技大会

百 M

第一位 佐藤 隆二

第二位 佐々木 啓司

第四位 佐藤 隆二

第六位 中川 久子

共通二百 M

全道大会出場資格者

中川 久子

◎陸上競技大会（中体連）

男子

百 M

一位 佐藤 隆二

二百 M

第三位 小松 大剛

走幅跳

第三位 阿部 達人

J 四百 M R

第二位 佐々木・高井

福田・佐藤

女子

百 M H

第五位 石黒 有美

二百 M

第三位 中川 久子

◎野球（新人戦）

準優勝

優勝

◎サッカー
第一回函館地区中学校サッカー春期大会

◎庭球(中体連)

団体 女子

第二位

個人戦

第一位

葛西・木村
大島・佐々木

渡島支庁大会

個人の部

葛西・木村

全道大会

個人の部

葛西・木村

◎水泳(中体連)

男子(団体)

第八位

百M自由形

佐藤 隆二

二百M自由形

佐藤 隆二

女子(団体)

第五位

百M自由形

小林真希子

二百M自由形

村井 香識

百M平泳ぎ

堂前 和美

二百M平泳ぎ

堂前 和美

百M背泳ぎ

小林真希子

二百M背泳ぎ

和田 幹子

二百混合

島田 勝江

男子四百Mリレー

佐藤・村井

阿部・高橋

女子四百Mリレー 第四位 小林・村井

関口・島田

【文化部門】

◎第三十三回全日本吹奏楽コンクール

北海道大会 金賞(B編成)

◎第三十回北海道吹奏楽団体コンクール

函館地区大会 金賞(B編成)

◎社会を明るくする運動ポスター

最優秀賞

優秀賞

久保田 司

板東 雅世

飯坂 知子

吉田 勇

◎市民憲章ポスター展

入選

鈴木 裕子

町田 智子

渡辺はつき

菊地 昌隆

特別賞(市長賞)

金澤 雄二

◎NHK電波障害ポスター展

道入選

函館佳作

飯坂 知子

笠原由紀子



学級紹介

一年A組

絶やすな笑顔

我々一Aは男子が21名、女子が23名、計44名のにぎやかな明るいクラスです。ほとんどの人がネアカなので、静かになる日なんかめったにありません。隣は受験をひかえている三年生。にもかかわらず、気にせずに楽しい学校生活を送っています。自習時間でも給食時間でも数人のおもしろい男子のために笑い声は絶えず、生活委員の「静かにして下さい」の声が教室中に響き渡る。だからこの機会に迷惑をかけた皆さんにあやまります。「うめんなさい……」

でもまだ他にも反省しなければいけないのがあります。それはなぜか忘れ物が多いことです。一カ月に十回以上忘れ物をする人は一人、二人ではありません。学習班で部活禁止、漢字練習と対策を考えているけれど全く効果なし。どうしたら減るのか教えてノ

生活面はこのとおり悪い方ですが我慢できることもあるんです。なんてったって賞状が9枚（壁新聞コンクール、運動会、体育大会……）もあるんだから。（うらやましいか？）体育が良いのは担任の大坂先生のおかげと優秀なA組の実力なのです。

それから教生先生の公開授業にも選ばれました。（なんて優秀なクラスなんだノ）そして弁論大会では伊藤さんが「同じ人間同士」というテーマで最優秀賞をとりました。

我々はそれぞれにいろいろな実力をもっているけれど、協力して活動するなどのクラスにも負けないすばらしいまとまりのあるクラスになるんです。（これが一Aの実態である。）

次は先生を紹介いたします。担任の大坂邦子先生はとてもやさしくて明るい、その反面、たくましくきびしく、時には女性とは思えないほど楽しいハリキリ先生です。

そこがかつこいい大坂先生。

我々はこの先生が担任で光栄なのです。国語の板東先生はロマンチストである。だれかの発表が良かったりすると「今日の太陽はお前のために照っている」「今日のヒーロー〇〇君」などと言うので我々は大声で笑ってしまふ。社会の安井先生は他の先生とは違う（？）おもしろさがある。そのうえテストの合計点数を聞かれてゾクッとくる人もいるようだ。ノートのまとめの後、先生独特の昔話もしてくれる。

数学、理科の吉田先生ははつきり言うとても気が若くて、授業中は説明から楽しい話へと変わって、みんなものってしまうのです。英語の亀松先生はユーモアな単語の覚え方、少々のしやれでとても教頭先生には見えません。音楽、美術の大久保先生や技術、家庭の佐々木先生、橋詰先生もこのさわがしい一Aにいていねいに教えて下さり本当にありがたいです。

もうすぐクラスがえがあるけれど、みんなバラバラになってもこの笑顔は絶やさないで行こうノ

皆さん、これからもよろしくお願いします。

一年B組

一年B組の実態

私達のクラス、一年B組は男子18名、女子24名、計42名のクラスです。担任は、吉田先生です。ふだんの私達はともうるさく（どこのクラスでも同じでしょうけど……）先生や代議員、学習委員の「うるさいぞー」という声がいとも聞こえています。入学式当時は静かで、校則をよく守り、とつてもよいクラスだったのですが、今は本性を出して、とつてもうるさいクラスになってしまっています。先生は、「昔はこんなクラスじゃなかったのになあ……」となげいています。でも、そんな私達にもほこれるものがあります。それは、合唱コンクールで「金賞」というとつてもすごい賞をもらったということです。おかげで——Bは全校に名をひびかせています!?

練習を始めるのがおそかったし、ライバルともいえるC組の方が声が出ているようだったので、優勝する自信はハッキリ言っていなかったのですが、とるのは金賞か銀賞と目標を持ってやったのがよかったのか、底力を出したのか、めでたく金賞。他にもみんな協力して、かがやかしい成績をあげています。

さて、次は我らの「legend」の紹介にうつりまーす。このすつばらしい——Bを受け持つのは吉田孜先生。名前はつとむって読むそうです。難しい読み方ですねー。ふりがなくても読めますか？吉田先生は今年この五稜中に来られたばかりの先生。先生の中で4番目に

若いようですが見えますかねえ。先生はひょうきんで、一時間に一回は必ず笑わせてくれます。また、話がそれてとんでもない方向へ進んでいくこともちよくちよくあります。こういう最高の先生ですから、一度受け持つてもらったら3年間この先生でいいな……の思わせる先生です。おせじでは絶対ありません。うそだと思ったら先生の授業を一度聞いてみればいいと思います。絶対すぐわかると思います。うそじゃないということが……。

そして、先生の次は——B、主役の紹介です、うちのクラスはみんな仲がよく、男女の仲もgood、いつもワイワイガヤガヤ集まってるにかやっています。奇人、変人、はじめ、ネクラ、ネアカなどいろいろいますがみんなとつても仲がいいです。勉強とくると、「ウツ」とか、「エエーツ」とくる人が大半ですが遊ぶとなると「ワイイ」とみんなはりきって飛びだしていくクラスです。

さて、うちのクラスには有名人がいますので紹介しましよ。

今くん……ねてもさめても思うはプロレス、プロレスが恋人という人。ひょうきんで、みんなをよく笑わせてくれる。

田原さん……キャプテン翼の熱狂的ファン。キャプテン翼とサッカーの事なら、この人におまかせ！

立原くん……給食大食いの天才。給食時間になると急に元気になる。

一人分じやたりなくて、みんなからもらっています。

関谷くん……東京の私立中からの転校生。一か月立つた立たないかで転校していつてしまった。けつこう受けてたけど……

このほかの人も、みんなそれぞれ、ひかりかがやいています。二年になると組かえがあり別れてしまうけど、——Bは永遠に不滅です。

（村井美樹 記）

一年C組

「毎度おなじみ階段のとなりの

⑤印だ！一年C組っ」



私達の学級、一年C組はどんなクラスかというと、まんざさわぐの大好きっ遊び大好きっストーブ大好きっという感じなのさつ。人数は男女計四十二でまともりはとーっても!?いい方です。

担任の大久保先生は非常に若く、普通に話している時は、とつても親しみやすく、学級内に何かめごとがあれば放課後遅くまで残つてでも解決してくれる、涙が出るほどとつても良い先生であります。

生活。授業態度は、入学式当時先生達によく「楽しくて親しみやすい」などと言われました。が、今ではすっかり中学校の板にはりついたせいか、いつも先生をおこらせています。(とつてもえらいですネッ) おまけに、あまりおこらないようなやさしい先生の授業ではウピーウパパとよくさわぎまくり、ド迫力満点の先生の場合は水をうったような静けさです。中には先生をからかっていちゃもんをつける者も現れました。

「こらっうるしええぞつ。」「ホゲッ」

先日行われた球技大会では、運動オンチのC組ははつきりいって「不利」でした。しかし、負けてもけつてクラスでのめごとはなく、「七転び八起」のように以前より明るく、そしてみんな健康優良児と変化していきました。おかげで今はかせひきが本当に少な

く「優秀？」な結果につながったのです。そーです。ちゃんと長所だつてあるんです。

我学級では2つの目標を立ててがんばっています。それは：：1 みんなで協力し話し合う明るい学級。

2 学習にたいして積極的にとりくむ学級。

なのです。今、努力のまつさい中です。(はたして一年生を終えるまで目標を達成できるかどうか。)

短所は、「赤信号みんなでわたればこわくない」というように、一人より大ぜいだど気が大きくなるという側がありますが、男女ともども、話はじめると、度が過ぎすぎて「チャイム着席」のきまりがいつても守られなくなつてしまします。これは今世紀最大一ーCのハジです。(あーらはおかしい。)

今度おヒマでしたら、一ーCをどうぞおのぞきになつて下さい。まだ幼い子供のようにはしゃぎ回っている、一ーCの生徒たちがごらんになれることでしょう。

このように、明るく活発な⑤印たちの集まり一年C組はあの夕日を背に2つの学級目標めざして、青春の1ページを歩んでいるまつさい中です。

階段のとなりの⑤印C組、ばあんだあんどっ!!

※⑤印とは「ギギ印」という所をでいくしよなりいでしらべて下さい。きつと、このクラスにピッタリであることでしょう。

おしま

一年D組

“にぎやか” 一年D組

我が、一年D組は寺根正善先生と、生徒四十二名から成り立っている。まず、先生の紹介からいってみよう。

寺根先生といえば、授業の話し言葉を聞くとわかる。それはなんと言つてもあの、ユニークさ！数学の時間はもう大爆笑で……。ある日は、検算のことを「ためし」と言つて平仮名で「ためし」と書いたり、またある日は、定規のことを「定木」と書いたりする。こつちはガクツとするし、後には笑いのうずに……。

先生は

「こうでも書かなきゃ、みんな間違えると困るからな。」
だつて。

また、黒板に書くときのスタイル。あれはユーモアがあつて……。それは、一、足を教壇に上げて腰を落とす。次に、腕をまくつてかまえる。最後に、体の正面は横を、右腕と顔は黒板を、左腕は正面を向いている。まっ、実にユニークなスタイルをして書くの。(そう思わない人もいるかな?)

このような先生だけとおくるともうおっかなくて……。めつたにおこらないからよけいおっかなく思われるのかもしいないけど……。でも、おこられるからうるさいと思う人もあると思うけど、それは誤解なんだつてば……。

ほかの時間はとっても静かなんだよ。昼休みなんかはその分、おもしろい羽をのぼして楽しむの。男子と女子が遊ぶ、なんてことはないけれど、男子と女子の協力があがるクラス。体育大会や運動会などのクラス対抗の時は一致団結しているクラスである。

いつもは朝寝坊なのに、朝の練習の時だけは、眠むたい目をこすりながらもクラスのために早々と登校して来てがんばつていたんだけど……。賞状の数はどうと……。エヘヘヘ。

でも、賞状があるつてことは、クラスの協力性と努力のかがあつてこそなんだよね。(我がクラスだつて賞状はあるのだ。)

こんなクラスでもけつこうにぎやか！ある人は。

「先生が来たぞ！」

と、みんなをおどろかせておきながら

「うそ！」

なんて言つてまた見に行く。それがみつかつておこられた人も……。

でも国語の時間はそうはいかないの。チャイム席を守らないとあと、(恐怖の)「げつバット」の、ご褒美(?)がもらえるんですよ。

ルン？数学の時も同じ。(いたーい?)から手チョップが……。だけど今ではそんなこともなく静かに授業が初めれるようになりつづける……。

このごろは中学生としての自覚が目芽えてきたような一年D組であるんですよ。

(柴田 記)

一年E組

一年E組のすべて

これから、一年E組の紹介をします。

我がクラス、一年E組の特色と言えばスポーツ万能なクラスです。成績は、体育大会の男子優勝、総合第二位、運動会は第二位、球技大会は男子優勝、女子準優勝でした。

しかし、美術の担任伊藤先生がいるのにもかわらず、文学や芸術の面では一つも賞をとっていません。

伊藤先生といえば、二年前に本通中学校からやってきた、スーパーヒーローなのです。今は、ぼく達の一年E組の担任として頑張っています。先生は、「自己中心的で思いやりにかける」「欲求不満」「愛情不満」と、よくぼく達に言います。

そしてこの前、六十年道教育実践表彰受賞者の一人にえらばれました。

伊藤先生の凶器といえば、100フォンにもおぼるゾウのような怒鳴り声、恐るべき地獄耳、ムチのような手、犬のような鼻、納豆のよう

うに臭う足、最後のきわめつけは、「いやらしい目」。

このような六大凶器が備わってこそ初めて伊藤先生がなりたつのです。

一年E組の長所は一つみつけるのに三年間かかります。短所はいっぱいあって、全部書くのに三年間もかかります。でも一番悪いの

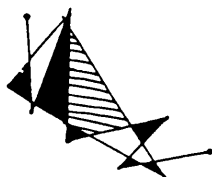
は、授業時間がぎやかなことです。これはどうやってもなおらないので、いつもこまっています。

ここで月曜日の授業風景をかんたんにまとめました。

はじめは学活。ほとんどの伊藤先生の説教を聞く。まるでオヤジに怒られているようだ。次は数学。真夏の林のようにセミがいつせいに鳴きます。次は社会科。先生がはいってくるとシーンとなる。なぜかこの時間はねむたくなってくる。長い授業が終り次は国語、先生の「よし、まる」「えらい」を聞き、ときには、おもしろい話をしてくれる。その後にテープを聞いた。みんなは顔をふせたままねてしまう。栄養をつけた後は英語。みんなはあたるかな？といつもびくびくしている。次は理科。いつもキリギリスが鳴いている。「うだねー」「うでしょ」「どうした。ん？」とやっているうちに授業が終わる。

これらのように一年E組は、特色もある。いい担任の先生もいる、いい友達もいる、長所はない、短所はあるとてもユーモアなクラスなのです。

記 小野 信總



二年A組

私たちのクラスは

一見、変なクラスだけ……

二年A組は題のとおり、一見へんなクラスです。先生方も、口ぐせのように「うるさい学級だ」とかいます。でもそれは本当のことなので言い返すこともできません。休み時間も他のクラスよりもすぐうるさいです。黒板に落書きをするし、先生の机を利用して、手袋でボールをつくりバレーボールをするし、ゴミはちらかっているし……。今、二年A組はバレーボールがブームです。そのわりにこの間の球技大会で女子は3対0で完敗しました。しかし、今はそれをバネにして、大空へはばたこうとしています。

しかし、こんな二年A組も悪いところだけではありません。内に秘めた力をもっています。

一、二学期を通して、やる時は一つにまとまってキチンとやり通します。まず、マラソン大会はえいこうの1位をかくとくしました。その他、水泳大会などでも優勝し、今、二年A組の教室の中には10枚以上の賞状があります。ほとんどあきらめていた合唱コンクールも男子の熱唱のおかげで2位に入賞しました。練習中ははずかしがつて全々声が出ず、先生もあきらめぎみの状態でした。しかし当日は、全員協力大きな声を出してすばらしい合唱ができました。そのときはさすがの先生もほめてくれました。こうして二年A組にある賞状の数は2ケタになり、二年A組の目標を達せしめたのです。

顔、体形、考え方など、いろいろな人がいます。それぞれみんな動物とか芸能人になています。ダンブを初めてちやうちやう、パンダ、あひる、ワニ、ちぐさ、いろいろいます。思わず気分はプロレス気分です。(恋したら、ハートばくはつするぜノ歌 ちぐさ)とにかくこのクラスはとんでるクラスなのです。男子はみんなダンブをこわがる。だけど、いざとなつたらしつかりしてるけど……。

このクラスは、少しだらだらして、少しだらしくなくて、少しへんなクラスだけど、みんな一人一人が金の卵のもちぬしなのです。

たとえば、ちぐさやダンブなどはプロレスラーのだいい金の卵です。二年A組はかたいかたい友情でむすばれています。だから二年A組はいつもかがやいていられるのです。そして二年A組には美男子や美女がたくさんいます。みんな知性があふれています。ただふだんはそれをみせないだけです。

二年A組は授業中はつきり言つてとてもうるさいです。いつもしづかな人にめいわくをかけています。となりの一年E組にもめいわくをかけていると思います。これまでの、ほんの少しある不満は、二年A組を一つだけ下においてはなればなれにしないで、三がいにうつりたい気持も少しあります。しかし、そんな小さなことなど、今は、ふつとばしてしましました。今ではひらきなおつて、みんな、楽しく一日一日すごしています。三年生になつても、クラスがえはないし、これだけはほんとうに、うれしいことです。もうすぐ三年生になる私たちは中身はぜんぜんかわつてないかもしれないけれど、みんな少しはせいちようしたと、信じこんでいます。これからもうつと二年A組はいろんなことに全力をつくし、がんばつていきたいと思っています。

記 白淵・山内

二年B組

『What is 8th grade-B?』『It's..』

二年B組の現在の状況、それと、クラスのこと、先生のことなどを紹介します。

では……現在の二年B組の人数は三十七人と五クラスある中の最低の人数であります。特に女子は少なく十五人、最初は三人の転入生を含めて、なんと四十三人もおりました。そのうちに一人へり、二人へり、しているうちにとうとういつのまにか三十七人になっていました。ある班は集中的に転校してしまったので三人などと言うおそまつな班もありました。できれば三学期に転入生が入って来てほしいとみんな思っています。そしてよりいっそう明るく、楽しく、仲よくやっていきたいです。

次に我々、二年B組は各種多彩な技能をもっている学級でもあり、その証拠に体育、文化面などの多くの賞状をもらっています。代表的なものは体育の面では体育大会の第一位など、その他にもいろいろともらっています。文化面では、文化祭のカペ新聞コンクール第二位、合唱コンクールはおしくも一点差で入賞をのがしてしまいました。まあ賞状をとれなかったものもあつたにはあつたけど、みんなが力を合わせて一生懸命やつたので、もうみんなくいはないと思う。その他にも我々のクラスでは国語と道徳の公開授業などもやりたいへんいい思い出になったはずで。発表してほめられた人は、

ほめられた思い出、発表できなかった人は、発表ができなかった思い出など、きつと将来も忘れずに残っているでしょう。

我々、二年B組の男子は前にもいったようにたいへんスポーツがとくいで、二年男子サッカー大会はなんと、優勝しました。スポーツだけじゃなく、道徳の時間などは進んで発表しています。

女子はスポーツに関しては男子とは逆に非常におしとやかです。ですが、他の場面になるとかっぱつで明るく、時には男子をおさえつけてしまうほどのこともあります。

そして、我々、二年B組の担任、小林康秀先生はものすごくまじめで、これが男の人かな? と思うぐらいいきちようめんな先生です。先生は何をやるにも本気でぶつかっていきます。そして自分にきびしく、また、生徒たちにもきびしいです。ですが、たいへんやさしいところもたいへん多くあり、とてもおもしろい先生でもあります。先生には「熱血っ!!」がたいへんよくにあうと思います。先生のまじめさや、きちようめんなさがなかったら小林先生は何もおもしろくないただの先生になってしまうでしょう。ですから、先生には、今後、よりいっそう「熱血っ!!」でいてもらいたいです。

最後に、我々、二年B組はたいへん明るく、そして、男女の仲もよく、なかまはずれのないよい学級です。たいへん明るいのは時には度をすぎしてしまうのも二年B組の長所でもあり、また、たいへんな短所でもあります。先生の時と同じく、明るさをのぞけばだたんに普通の何のとりえもない、なにもおもしろくない学級になってしまいます。だけど今のままじゃなく、よりいっそう向上し、クラスの一一人が「ねっけつ」になるよう努力をしたいです。

二年C組

文化の二年C組

ぼくら二年C組は、たいした運動のできるクラスでもなけりや、勉強もそんなに他のクラスから見てもできるわけでもない（ま、自慢なんかできることじゃないけど。）とにかく平凡！

しかし、そんなこというと、なあんもいいとこないような、情けないクラスになってしまうが、題名のとおりには、『文化のC組』なのだ、なんてつたつて今年の文化祭の、合唱コンクール金賞だもんね！（うちの担任が、音楽を教えていて異様な執念を持っていたから。）先生の、焼け付くような熱い熱意に引っぱられてか、とうとう優勝してしまった。新聞コンクールでも、一番最後にあわてて出したのにしつかり第一位をとってしまったので、今のところ二年C組の特徴は、これくらいです。それで我が二年C組は、体育面から数えていくと、ビリから数えたほうが、早いクラスです。しかも、とにかく平凡なクラスですが、文化面での、いざまとまらなくて、というところで、しつかりするところも、うちのクラスの特徴だとぼくは、思っています。

授業の態度は、にぎやか、というよりも、私語の多いうるさいクラスでもある。授業の始めのうちは、まだ休み時間が、続いているときのごとくうるさく、中ごろは、静かになってきて、終わりがごろは、あきてきたのか、休み時間前の軽い休憩のごとく、うるさくな

ります。ごくわずかな時間をぬかして、ほとんどが休み時間のようになる。少し気をぬくと私語が多くなるクラスです。もちろん静かな時もありますが……。

休み時間では、いくつかのグループに分かれて、話しをしたり、それとなぜか、休み時間になると、クラス内の人数がグッと減って、チャイムが鳴ると、どこからともなくもどつてきて、全員そろいます。とにかくいつでもみんな、明るくすごすクラスです。

ところでうちの担任の、大森武治先生は、仲本こうじに似ている（自分では否定しているが。）みんなもよく考えるとそう思うだろうから、一度、大森先生の顔を、じっくりと（あんまり、じろじろ見なくてもいいけど。）見て下さい。みんなも同感すると思うから。それに、すごいろいろなことを話してくれる先生で、調子にのると、パツ、パツ、パツ、とべらべらしゃべりまくる。この間だつてとうとう紫電改のことまで、しゃべってしまった。こんなところが親しみを、持っているのではないだろうか。それに先生は、自分の年を妙に気にしていて、まだ若いのに、さりげない所で自分の年のことを、二十歳ぐらいにしてしまいます。大学のころの話をしているのに四年前とかいつて、なかなかするどいことをいつたりするし、ジョークのきく先生です。

最後に、二年C組はこれから、学習面、体育面ともに、文化面に負けないくらいにがんばって、平凡なクラスとおさらばするために努力します。

記 高橋

二年D組

活発2D

HELLO 3年生

ぼくたちのCLASSは、決して良いCLASSとは言えません。ぼくの考えでは、中の下いや下の上くらいかな? 例えば、授業中の私語が多い、教室内で走りまわる、忘れ物が非常に多い、など悪い事を話そうとするときりがありません。でもこのように悪い事はばかりではなく、良い事もあるのです(少ないけれど)。それはぼくたちのCLASSは、最後まであきらめない、ということ。体育大会、水泳大会、マラソン大会、合唱コンクールなどすべての大会に全力をつくしました。けれども賞状は、2枚しかありません。でもその2枚にはすごく重みを感じます。前置きはこれくらいにして授業風景について話します。まずは、

国語

担当の先生は小林先生です。夏には実習生の若い男の先生もきてとても楽しかったです。また、古文なども暗記させられて、苦しかったです。

社会

担任の先生は渡辺先生ですけど、今は井上先生です。本通中学校からきました。みように戦争ものには強い先生です。それに

数学

プリントがすごく多いんだ。

担当は寺根先生で、みんな授業中は大笑い、特徴は少し「ACCENT」がきついこと、たくさん問題を出したがることです。でもこういう授業もいいと思う。

理科

担当は、武田先生。ぼくたちのHOMEROOM TEACHERでもあり、短学活や授業中、大きな声で怒りますが、普段はとてもやさしい先生です。

英語

担当の先生は竹村先生。毎時間のようには大事な話などいろいろ話してくれる先生です。英作や暗記などさせられ、他の先生とくらべると少しきびしい先生かな……。

このように五科目しか書きませんでしたが、楽しい授業ばかりです。このような授業もあと一年とちよつと、でも三年生のみなさんはもう数えるほどしかありません。最後に、三年生のみなさん高等学校や就職してもがんばってください。

GOOD LUCK 3年生。

記 西 純一

二年E組

機関車・二年E組号

二年E組というクラスは、ハッキリ言つて、素晴らしい？ 学級なのであります。もつとハッキリ言つと、少し(かな?)うるさい学級でもあるのですが……。

まず、なんといっても、団結力がすばらしい。

賞状の数が、なんと八枚。(なぜか、体育関係ばかり)そして、ますます驚くべきことに、そのうち四枚が女子で、さらにその三枚が、「第一位」なのです。男子は……ありません。

しかし、これだけで、われらが二年E組を判断してはいけません。たしかに、女子のほうが少しにぎやかですけど……。

あまり言いたくはございませんが、授業時間は、男女一緒に、ワイワイとやっております。(そのため成績は……)

おかげで、担任の石井先生に、ハジをかせたことも、何度かあったようでした。先生、ごめんなさい。

さて、このへんで Homeroom teacher、石井先生のお話に移りましょう。

まず、ほめるべきは、こーゆー大変なクラスの担任をやり通している、忍耐力でしょう。(つくづく感心してしまいます)

体育の先生であるせいか、たいていジャージなのですけれど、背広なんか着ると、これがなかなか似合うんですよ。うん。

きちよーめんな先生というところは、班ノートでわかります。一人一人、きちんと感想や意見などを書いてくれるので、こつちも楽しみだったりして。

あと、何があるかというと、給食と掃除に関しては、ひじょーにきびしく、わたしなどは、残す量がへってしまったほどです。

でも結論としては、やつぱりいい先生です。ほんとですよ。

それでは、生徒のほうに話をもどしましょう。

男子と女子の仲はというと……まあまあつてところでしょうか。

ただ、授業時間なんかのおしやべりとくると、意気投合しちゃつても、大変。ちよつとやさつとじや、おさまりません。

最も、さすがの二年E組も、頭の上がらない先生はいます。

一応、いわないでおきましょう。(見当はずかしく思います)

休み時間の教室は……冬になると、女子は井戸端会議ならぬストーブばた会議に花が咲き、男子は、ずらりならんだ机の間で、追っかけつこやとつくみ合いに大いそがし——こんなところは、他のクラスも、同じでしょうか？

生徒も、一応、いろんな人間がいますから、大勢でワイワイやつたり、少数でベチャクチャやつたり、一人で本読んでたり——いろいろです。

結局、機関車二年E組号の終着駅は、まだまだ遠そうですね。

それでも、いつか到着する日のために、みんな、一生懸命がんばっています。(脱線なんかしないように)

三年の機関車に乗るかえの日まで、今日も、二年E組号は、レールの上を突っ走ります。それでは、行ってきまーす。

記 宮川いずみ

三年A組

担任 石津 兼一



ご卒業おめでとう。各自、選択し決定した進路へ向け、新たな決意と意欲とで胸ふくらませていくことでしょう。将来の目標達成までには、今迄以上に自分の能力・適性・夢等を分析・検討し、何度も何度も悩み苦しみ、不安と断念を繰り返し、幾百もの道のうち、最終的に一つに決定することになると思う。この中学時代に考えもしなかった進路、己の生きる道を決定しなければならぬ時が必ず来る。今後の努力はその決定の瞬間に、自分なりに納得でき、未来への希望につながることを期待しての努力に他ならない。確固たる目標・夢があるからこそ努力し、忍耐し、継続できるもの。そこには目標・夢達成までには何かなんでもという強い信念があつてこそ、獲得できるもの。偶然に飛び込んできたラッキーな道とは異なり、日日不安もなし、自信に満ちた力強い生き方ができるというもの。諸君の今後の力強い生き方を期待する。

もいつかきつと班の反省の表紙に使われることでしょう……。……むなしいつす……。……

もさて、次はクラスのふんいきについてお話ししましょう。我クラスは、はつきりいつてくらういふんいきのクラスに見えますが、その通りなのです。ところが給食の時間になると、手のひらをひっくりかえしたように、いきなり明るさをとりもどします。そのくらのイメージからは、想像もできないほどに明るくなります。(世間では、これを「二重人格と呼ぶ」)

中瀬…「すんばらしく、面白い文口仕上って、すつごくわれしで。」
中川…「4人できちんと協力してすばらしいのができた。」

杉野…「協力しあい、よい作品ができたと思います!」
住吉…「御愛読ありがとうございます。では……。」

短足…短気…物忘れ…さあクイズです。さあ「誰だ」は誰でしよう。もちろん「たぬき」です。おつとノモといつノそれは我クラスのTEACHER・兼ちゃんです。いまいち誤解しないように……(洗濯屋けんちゃんではありません。)こういう事も一部ありますが、しかし生徒の事をよく考えとつても、良い先生です。

体育大会の2、3日前に、「優勝したらアイスをおごつてもらおう」という約束をしたので、いやしい私達はとうせ50円アイスだろうと思いつながら競技に「力」がはいりみごと優勝。次の日の放課後、な・な・なんとあの輝かしい100円アイスが私達を、迎えてくれたのであった。それ以来、私達はひそかにアイスを期待し次つぎに優秀な成績をおさめていったのであった。しかしむざんに期待はうらぎられ、苦しい日を送ったのであった。たぶん、この輝かしい賞状

(中瀬・中川・杉野・住吉・記)

- ◆ おじいちゃんがこわれていく——。
たしかか？ たしかに……。
- ◆ わたしがっ大久保 清です。
- ◆ オヒヨイ何でそれを早く言わないんだ
トップ入れかわり一円の図書券。
- ◆ 成龍！
- ◆ ー無言ー！
- ◆ 五稜郭公園はとても広いので、おどろ
いた。
- ◆ 人間しんぼうだ、人間欲望だ！ はっは
生きている自分を燃やすこと
傷ついてくやんだりしたくない！
- ◆ ちゅうじえんがいたい
- ◆ ONE TWO PUNCH！
- ◆ どうもこいつもインド人
これやめましょ
- ◆ 人間努力だ！ でも努力したかなあ
- ◆ 人の命はつきるとも不滅の力
マジンガーZ
- ◆ 奇妙奇天烈摩訶不思議幻想天外四捨五
入出前迅速落書無用。さて誰でしょう
- ◆ 誰も殺めたことがない血に染えた死
あなたか味わうのは、きつと今夜
- ◆ 愛・平和・幸せ・愛・平和・幸せ
- ◆ ちよっ！ ちよっ教室さ入れれ教室に

池田 幸雄
泉 仁
加藤 修
菊池 薫
北原 晃
倉口 学
小松 大剛
佐藤 誠通
嶋田 竹寿
須田 雅樹
中嶋利勝
檜木 孝彦
平田 衆康
三原 貴史
宮腰 総之

- ◆ 石津来た石津！！
- ◆ どこかへ鬼太郎は、消えていく
カランコロン カランコロン コロン
- ◆ スリッパがぬげた！
- ◆ 二度もぶったな！
- ◆ 卒業しても元気でね！
- ◆ いったって 私は、わたし……
- ◆ おっ！ すびちゃん by 紅羅里素
- ◆ 悲しい事がありすぎるからんは、楽しい
事があると妙に明るくなるんだネ
- ◆ Don't Say Good-bye
いつかまた会えるよね！
- ◆ 智映子。美和。恭子。さお。久美子。
英子。オリカ。高校でもがんばろうね！
- ◆ 一つの夢をいつも私は追いかけた。白
いボールにその夢をのせて走った……。
- ◆ こんなことならあいつをすてなきゃよ
かった、と最後にあんたにいわせたい
- ◆ 3年間お世話になりました♡バイバイ
※なお、文通・カミノリ等は下記まで
- ◆ I CAN'T SAY
"GOOD-BYE"
- ◆ 両手でつつみこめば涙だらけの初恋も
笑ってはなせる宝もの……。
- ◆ いつかまた会えるとき 君のまま

村井 款
守谷 昭範
山本 真貴
吉田 圭吾
青木ルリ子
石黒 有美
上野 澄子
小田 美和
尾見佳菜恵
川合 恭子
木下智映子
木村 弥生
日下 裕美
楠川 英子

会えるといいわね... By かおり

◆ ゆみちゃんあごになんかついてるよ

うーん マンダム

◆ 自分の夢をかなえるため みんな

それぞれ新たな道へ.....

◆ 4÷4じゃ悲しいわ。

I like My Friend

◆ 希望に消える後ろ姿に

ほんの少しの悲しみ.....

◆ YOU CAN NEVER

COME TO PLACE

◆ 日向小次郎、若島津健、沢田タケシ、

反町一樹.....いつらは俺の青春だ。

◆ Don't say Good-bye

see you again、

◆ もう一度中一からやりなおしたい。

◆ くだけちる、ガラスのはへんの数だけ

愛がある。そして.....

◆ わかめが光合成したからバイバイ

みなさん元気で。

◆ 消えないうちに愛を預けておくから

切ないときには開けてみればいい.....

工藤 香織

住吉 佳恵

出戸真由美

寺内 リカ

豊川さおり

中川 久子

中瀬 佳織

中村佳代子

中村 早苗

信田久美子

干場 麻希

杉野 綾子

※三年教科担任のことば※

挑 戦



大坂 邦子

アメリカ宇宙局のスペースシャトルが爆発、乗員7名全員絶望と伝えられている。つい数ヶ月前には日航ジャンボ機が墜落500名からの犠牲者を出した。このように人間の最高頭脳を集めたといわれるものでさえ失敗がくり返されている。しかしこれらの失敗によってロケットの開発がやめられたり、飛行機がなくなってしまうことは考えられない。新たな対策や方法の開発等により前よりもっと素晴らしいものが作り出されていくと思う。人間の今の文明はこんな人間の挑戦によって生まれてきたものであり「失敗によって学ぶ」という基本的姿勢は今も変わらない。しかし安易な気持での挑戦は初めから意味はない、常に万全と思える態勢で望むことによって失敗が生かされる。何かにつけて「立派」といわれる3年生の今後に期待したいのはそんな挑戦である。

三年B組

担任 杉谷 宏



「満帆」いつごろ、この言葉が好きになったのか、はつきり覚えていない。しかし三月（卒業期）を前にすると無意識にこの言葉がでてくる。私は、小さな海辺の「まち」に生れ、海で育った、そのせいか海への憧れも強かった。船は好きだったが特に大海原を帆走する帆船には魅力をもったのは姿、形だけでなく帆走の原動力がすべて人力であるからだ。二十数校の帆それに付属する数多くの帆船と舵で操船している。逆風、嵐にも怯むことなく目的に向かって前進できるのは、乗組員の固い絆と団結、そして幾度となく遭遇した荒天での経験、練磨された技能、そして勇氣ある決断の賜物であろう。これからも果しなく続くであろうこの苦難な道も、しかし彼等はきつと自からの汗と血と涙で道を切り開き順風を帆いっぱい受けて前進する美しく雄雄しい船形をみせてくれるだろう。この帆船が好きだ。

3年B組だぜーノマジ・マジ・まんじ？

あのね、ぼくたちね、「3年B組」っていうの。ホントだよ。そんでね、僕たちの組はね、ゼンブで42人なの。僕たちのクラスにはね変なのがいっぱいいるの。ええとねー、カーさんみたいのとかねー、それから、うーんと、やたらバカまねするやつとかねー、それからねー、やたら朝鮮語使うやつとかねー。いっぱいいるの。ウンじゃないよ。だけどねえ、ここだねえ、普通はねえ、協力してやるすばらしいクラスと書くところだねえ、僕たちのクラスはねえ、全然バラバラなの、だけどねえ、そうでもなくてねえ、賞状がねえ4枚もあるの。全然、すごくないでしょう。（結局、一致団結してやるクラスなのだ。）それでねえ、担任がねえ、杉谷のねえひ・ろ・しっていうの、ほんでねえ、禁煙パイポをねえ、ハイポと呼んで吸ってるの。だけどねえ、今いないの。（12月現在）だからねえ、代

わりにねえ通称「神様」のねえ、大野センセがやってるの。ほんでえ、ぼく達がねえ、「マジ！」というかねえ、「マジだどー」といって怒るの。どうしてかな？

（ここで作者はわれに返る。）

あつ、それから、校長先生、教頭先生、各諸先生方、それに、杉谷先生、大野先生、それから、学校のみんなや、学校関係の方がた、そして、そして、この五稜中学校に感謝せずにはいられません。本当に、どうもありがとうございました。

そして、最後に、

3年B組は、永遠に不滅……かな？

（この、学級紹介は、ノンフィクションであり、実際の、個人、団体等には、いっさい関係ありません。）

（加賀記）

◆五棱中よ、さようなら。でもブライア
ンは永遠に不滅だよ。 ハハハ・・・

◆そつと想い出にかえること

君はできなくて・・・

◆野球よ、うるさかった○○先生、別
てほつとする○○先生・・・

◆将来みんなが成功することを祈る

◆あふれ出す想い出を

あいつとともに心の片隅へ・・・

◆本日はお日がらもよく・・・

えーっ、マジかよー！ほんじやバイビー

◆初心の心を忘れずに！

◆ぼくは⑤です。

◆ペンキヨウとはおさらばだ！！

◆義務教育だった学校は、もう卒業した

◆人生はこれからだ。

自分の考えをいかし進んでいこう

◆七転び八起き、たゆまぬ努力

◆雨の日も、風の日も、夏の暑い日も

冬の寒い日もいつも野球部で練習した

◆思い出のページが、

また一枚・・・

◆入学、卒業・・・

そしてめぐりあい

◆青春の一ページに別れを告げて俺は今

赤塚 正典

池田 正

石黒 司

伊藤輝美彰

12
大石 和也

加賀 大輔

片山 明広

金谷 嘉之

高橋 光貴

田中 玲次

土谷 公宏

中村 一彦

長川 武司

沼田 晃一

浜上 雅之

はばたく GOOD LUCK・・・

◆んから支配されてはいけない。So
open vp. your eyes、

◆義務教育 バンザイ！！

◆中学校生活に ビリオドをうった。

◆三年間の思い出を

学校の片隅に・・・

◆俺は男だ、

男は青春どまん中！

◆え・「卒業」・・・思い出を持って
旅へ出ます。

◆ I get up again,
over and over

◆今日との別れは、明日への旅立ち、
明日とは新たな発展を見せる日だろう

◆思い出を瞳のスクリーンに映し出し
ラストシーンは微えんでサヨナラ♡

◆見つけました。新しい出発点。

◆中学校生活に今、PERIODを・・・

◆生きているから 叫び続ける

明日に向かって Run and Run

◆バラ色の青春をありがとう・・・

◆今度はコバルトブルーの青春を・・・

◆空を飛ぶ鳥のように、野を駆ける風
のように歩きだそう！さようなら

福田 英幸

堀江 洋一

前田 正幸

矢尾板 正

岡山 和昭

佐々木隆男

阿部 真子

板垣 佳織

伊藤 陽子

大島 康子

金浜 佳代

木村 明子

桑島 智絵

小林 順子

◆君イーッかりしてよねっ！
人の気も知らないで・・・

◆故きを温ねて新しきを知る。

◆BEST OF MY LOVE

TAKAMISAWA

◆卒業//悲しいなあ。悲しいなあ。

卒業したくないなあ。

◆昨日より今日。今日より明日が、さ

らにいい日でありますように・・・。

◆3年間、いろいろな事わかりました

出会えてよかったっ!! 元気でね。

◆みんな元気で 私のこと忘れずに。

また 会う日まで・・・。

◆もう逢えないかもしれない

◆春なのに おわかれですか？

春なのに・・・春なのに・・・

◆卒業 今日の日をいつまでも想い出

に残して今私は旅立つ。Good-By

◆さよならなんていわないで

にっこり笑って・・・

◆みじかい中学校生活でした。

卒業 したくないな！

◆Good-By わたしの青春今度こ

そチャンスをつかんで輝いて生きたい

斉藤 綾子
平 光

田原 博美

寺崎 清美

中者 直美

西川 真理

野田由里子

能登谷晴美

橋本とも子

藤谷 明美

松橋 美穂

宮地 園子

山野 幸江

※三年教科担任のことば※

健闘を祈る



川島 啓 右

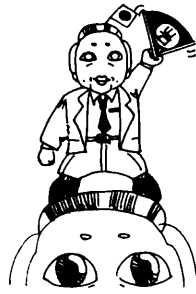
今年も、まだまだ厳寒。この寒さも北に去る頃、君もいよいよ卒業だね。おめでとう。二年前、青い畳の上で、膝小僧を揃え黙想していた白帯姿。体の小さい君は、みんなの格好な練習台にされ、時には半べそをかきながら耐えていた。そんな君も今年に入り、めきめき実り始め選手として活躍するまでに漕ぎ着けた。その努力と成長に感服したものです。

卒業を目前にした今、これから自分がどの道を歩み続けるか、その選択に煩悶しているのではないかと思います。未知の社会に對するあこがれ、期待、そして不安……。日常あまり喜怒哀楽を表情に出さない君だが、うんと悩むがいい。うんと考えるがいい。そして、決めたら絶対悔まないことだ。途中どんな障害が待っているようと、確かな足どりで歩み続けて下さい。自分の選んだ道だから。投げられても投げられても、起きあがった君だから。

七転八起の人生！ 健闘を祈る。

三年C組

担任 山岸 岩夫



香氣に満ちた菊花。そのりんとした姿に接すると心がなごむ。本校の一階廊下に並んでいる鉢には三本仕立ての大輪が咲き誇っている。直径二十七センチメートルの黒塗りの九号鉢は花を引き立てて控え目である。

卒業する皆の前途にも、すばらしい大きな花を咲かせてほしい。そのために参考にすることを書す。私が七年程前から三本仕立ての菊を育てて知ったことの一部だ。

五月にさし芽して根づいた苗を九号鉢に植えてはいけない。なぜなら、最初から九号鉢で育てても根はひろひろで小さい花しかつけない。最初は二号鉢。鉢一杯に根が広がる六月中旬頃に五号と段階を追って鉢の大きさを変える。しかも、移植の際は必ず根を三分の一ほどを思いっきり切り落とす。これによって根はたくましく伸張り旺盛な成長を遂げていくのだ。成長にとって節目と逆境は大切なのである。

『サザエさん3-Cを語る!!』

みなさんお元気ですか？ サザエでございまーす。今回は3年C組の紹介をするように阿部君にたのまれたので、乱筆乱文ですが、どうか読んで下さいまし。

この3年C組というのはとても明るいクラスです。うちのカツオも「中学校に入ったらC組のようなクラスに入りたいな。」などと言っていました。がなかなか中学生になれないのがたまにキズです。ワカメは最近カリアゲをてっぺんまであげ、タラちゃんもグレしてしまつて家の中は大混乱……。私は頭が痛くなる一方です。まあそんなことはどうでもいいの心……。

担任の山岸先生はとても温厚でやさしい人です。うちのうらのおじいちゃんも「あのお方はステキで、すばらしいお方じゃや。きつと偉い教え子をつくることじやろに……。」などと申しております。

た。この先生が率いるC組にはほかのクラスにはない「あたたかみ」というものが満ちあふれていると思います。それは生徒たちを先生が優しく見守ってくれているからでしょうね。このクラスの明るい面というのを見えていますと、休み時間にはせまい机を利用して卓球を「BOY」してみたり、女子は女子でストーブのそばにたかつて座談会としやれこんでいたりしています。チャイムが鳴ると始めはあまり席にもどろうとする人はいないけれど、「先生が来たぞー！」との叫び声とともにゲルマン民族の大移動のように「ウォー」という声も高らか、ピタツと席にもどつてしまします。

このような明るいクラスを私は愛せずにはいられません。それでは来週もまた見て下さいね……。ンガンツンツン。

(阿部 記)

- ◆あまりにも悔いの残る三年間でした
- ◆少年は、母がつくったドーナツが好きだ！ ☆GOOD LUCK ☆
- ◆燃えたよ、燃えつきた。まっ黒にな……
- ◆NEVER GIV UP
- ◆少年は母がつくったなりすしが好きだ………ピテアーチャチャチャヤー。
- ◆いつの時代でも夢を持たなきゃ男じゃないぜ！
- ◆せつしや、そろろうでそろろう。
- ◆I hold you
あばらが音をたてて折れる程……
- ◆卒業…初恋 情熱
- ◆LIKE A DEVIL ………
- ◆Why don't you
remind me out ?
- ◆キミの笑顔がまぶしいぜ！
To beautiful girl ♡
- ◆黒い法により気は失跡せり。音は戦慄せり。かくて、黒い悪魔再誕せり。
- ◆人類の先祖の猿をもっと尊重しよう。
- ◆朝までやって！
- ◆てめーらゆるさねえ。
- ◆少年は、母が作ったサンドイッチが好きだった。

阿部崇宏
安部 拓生
阿部 毅
石川 真次
伊藤 慈朗
氏家 司
大村 一人
小田桐 淳
金澤雄二
亀本 祐二
菊池 昌隆
菊地 幸男
北 裕樹
木田 圭
高田 昇
高橋 豊
竹内 亮司

- ◆「あつ。」という間の三年間でした。
さようなら、五稜中学校。
- ◆僕は白を愛する。何にでも染められて突っ走るんだ。…ウン、僕って哀れ。
- ◆古いものの死なくしては新しいものの誕生はない。
- ◆二度ともどらない「今」を全力で生きよう。
- ◆「必ずメダルとります。」私はこの心意気が好きです。
- ◆かぼちゃの馬車が向かえにきてくれるほど 現実をあまくない。
- ◆ROME WAS NOT
BUILT IN A DAY
- ◆……………
- ◆さよならき……………
- ◆Do your best!!でっ
みなさん がんばりませう
- ◆TIME FLIES
LIKE AN ARROW
- ◆困っている時の友人が
真の友人である。ね、りかちゃん
- ◆REMEMBER ME WAEN
I AM GONE
- ◆あなたのもとへ幸せが届きますように

内藤 雄司
中村 孝
中村 直樹
山根慎太郎
阿部有希子
有吉 美貴
池田 朋子
伊藤 志帆
猪股 裕美
大田こずえ
太田 紀子
大高 恵美

三年D組

担任 三河 和広



過去に体験したことのないほど五稜中では、楽しく、しかも、充実した三年の生活を送ることができました。それには、諸君の普段のたゆまぬ努力と父母の心からの支援、地域の各方面からの協力によって可能であったと感謝しています。さて、社会に目を向けると、終戦から今日まで物質中心に価値を求めてきた風潮から、人間として重視しなければならない人の心の問題に関心が高まりつつあるという時代の変化を敏感に認識することが大切だと思っています。本来あるべき人間の心を大切に、より自分自身の精神を研ぎ、立派な人格の形成を目標に一層の努力を期待します。二十一世紀を担う諸君には、さらに、世界の中の個人という自覚をしっかりと確立し、国際人として通用する人間に成長することを強く望みたいと思います。最後に、ますますの健闘を祈ります。

近代3Dの なりたち

——時は1930年代に さかのぼり——

X月13日(金) ちなみに仏滅。D国の子供たちは、いつもと変わらず、青空教室で指をおりながらたし算をしています。そのころラジオオでは、「たった今、D国の天皇がE国に宣戦布告しました。」と告げてました。数日後、子供たちに赤ふだが届き、桜色の軍服を着て、口々に「勝あーってくるぞと勇ましくー」と口ずさみ、戦いへと向かったのです。これが「五稜ヶ原の戦い」です。

戦いは、いろいろなところでくりひろげられ、特に、試験場では激戦が続きました。このときD国は、他国の「戦力をほとんど持つてないくせに……」という影の声を背に、ひたすらガッツで、E国に立ち向かっていったのです。時には、「なぜ、天皇は強国と名高いE国に宣戦布告をしたのだろー。…愚かだ」などと、思いながら…。

また、戦いが続くに従って、桜色の軍服も黄ばんでいきました。しかし、子供たちは、へこたれませんでした。

次に「二四」を燃やしたのは、玉合戦注・現在という球技大会かな。まず、我國のさどもは、「俺にまかせろ」と、サッカーとやらでE国に勇敢に立ち向かったにもかかわらず、身も心もボロボロになって帰ってきた。そこで、闘志に燃えた早たち、「あんたのしかえしは、私らが命にかえてもしてみせるばってん、ごはんを作って待ってけろ。今夜は、ステーキにしてね」と、バレーボールとやらに女の一生をかけたのです。みにくい女の意地のはりあい……結果は、めでたく(?)D国の勝利。(うーん。おみごと)

この戦い、どちらが勝ったかは、記憶にございません。(想像におまかせ……)ま、とにかく、これが受験戦争の始まりで、子供たちは、私ら42人の祖先。もちろん、天皇は三河先生で、ついでに、E国はE組。そして、私たちは、過去のことも知らず、今また、前と同じ運命を歩もうとしているわけです。ちゃんちゃん。

◆義務教育は終わったが、私の卓球は終わっていない。あつそれから勉強も!!

◆三年間は「あつ」と、言う間にすぎ義務教育とも おさらばだ。

◆ただいま卒業。高校で、はばたけ明るい一つの人生、歩もうぜ。

◆アーノルド・パンチバーマは人気者栄光の背番号7番!

◆See you again
This is a pen

◆しよせんかなわぬ恋じやけん!どいつもこいつも印・度・ん。

◆青春という言葉を胸に これからも走り続けていきたいと思えます。

◆何だコラッ!やんのかコラッ!
BE-BOP-ヤン

◆頼れるものは人望ではなく
唯 己の力あるのみ

◆人生はこれからだ。がんばろう!
自分で選んだ道だもの。

◆タココラッ!文句あんのかコラッ!
失礼しました チャンチャン……

◆「あの子もその子もげんきな子!」
五稜ノガンバノファイトノ勝利ノ

必勝ノ優勝ノ根性ノ忍耐ノガッツ!

浅水 剛

大野 義徳

小野寺 靖

木村 敦志

木村 靖

黒政 覚

後藤 栄司

小林 英雄

高村 輝明

館田 勝利

千葉 君明

土谷 貴司

寺谷 昌大

◆思い出を作った学校ともお別れ……。

◆明日からは、新しい世界へと歩む
楽しくもあり、苦しくもあった三年間

◆明日に向かって一直線。

◆青春の頃はだれでも一度きりだから……
人間は根性があれば何でもできる。

◆さよなら!!
ハウスジャワ原人。男のロマン
哀愁のダンディズム、吉田です。

◆あつという間の三年間。卒業しても
みんな元気でがんばろうや/や/や/や/

◆わが青春のページよ。さようなら。

◆みんなと別れるのはつらいけどこれも
青春だと思えば納得できる。せばね♡

◆星屑たち あたし約束するよ
世界のだれより Shine になるって

◆BYE、だけど、また会おう。
10年後、10月17日、午後2時、五稜郭
公園の井戸の前に立ってます。

◆苦しくて夢はまだ遠いけど明日はきつ
といいことあるって信じてる。

◆3年間、たのしかった みんな また
会おうね♡ うんじやバイバイ

◆一時計の針 止めたたくても
かけぬける 時の素早さー別離

西村大志朗

牧 知史

三国 純也

山崎 祐司

吉田 勇

吉田 弘生

木村 匡

井下裕貴子

大高由美子

緒方 聡美

岸 美由紀

北山亜貴子

黒川 泉

坂井希生子

◆ 思い出したときに、泣いて暮らすわ。やさしくされた思い出を。

◆ 卒業だ／うれしい／

◆ たった一枚の紙きれが三年間にビリオドを打った。もー もどれない……

◆ “月おーせーわーになりました／月”

井上 順

◆ このまま “Good-By”

きつと後悔。…もうもどれない。

◆ さよならがいつばい。でも 出会いもいつばいあるから……

◆ 私 につこり笑って嘘つくの好きだから さよならの時も……

◆ Going my way

◆ ああ、卒業式で泣かないと……という感じはないけど……

◆ 思い出の中に残りたい。愛した分だけ人は優しくなれる”って言った貴方の……

◆ みんな、また明るく騒ごうな／

◆ さがらなおみです。一緒に「ありがとうのテーマ」を歌いましょう。

◆ 未成年のまんまで。OZAKI

◆ 涙でさよならいやだから、につこり笑ってさよならしましょ。

◆ “さよなら”は出会いの合言葉……

坂本ふみえ
佐藤奈津美

塩田亜矢子

嶋田伊佐子

鈴木恵里加

瀬川 尚子

高田 未奈

田中希代子

田中真奈美

羽山美由記

日向 朋子

前川ひろえ

又井ユミ子

村上 恵

横浜 真喜

※三年教科担任のことば※

希望を胸に、しっかりと考えて



大野 哲朗

新しい船出おめでとう。これからいろいろなことがあるでしょうが決してくじけることなく、心を生きて生きと輝かせて進んで下さい。今ほど自分と地球は共通の運命を持つということを感じさせる時代はありません。また、人類が明日にでも滅亡することがあり得る恐ろしい時代もなかったでしょう。こういう中に生きている我々です。

今、日本は物質的に恵まれています。しかし失われて行っているものも多いと思います。あなた方を取り巻いているいろいろなものの中で、何が必要で何が必要でないのかを考えて下さい。あなた自身についても謙虚に考えて下さい。これでいいのかなあと。

でも、どんなときでも希望を失わないように。人類や地球に對しても、そしてあなた自身にも。

いや、えらいお説教になりましたが、ご健勝を祈りますぞ。

三年E組

担任 石名坂克明

期待していますぞ!!



卒業おめでとうございます。
栄光に満ちた旧2年A組のあとの担任として、この一年間君たちと苦楽を共にしたことを、とても幸福に感じています。君たちに要求したものは、ただ一つでした。“何事にも目標をもって挑戦しよう”ということです。そのために、一人一人が自分の持っている最大級の力を出して積極的に努力していくことを要求してきました。クラス全体がこの要求によく応えてくれました。結果として、賞状の枚数や、学習成績にその成果が出ていました。このことから、卒業していく君たちに、あえて言いたい!! これからは、人に言われず、自ら考えて、目標や夢を設定し、自分の人生にチャレンジしてほしい。このチャレンジ精神が、今の君たちの若さの象徴なのだ。そのチャレンジの結果が、君たち一人一人の幸福につながることを祈っています。

石名坂克明帝国 バンザイ

「Good-morning-everybody」

「ぐっど もーにんぐ みすたーいっしなあーざか」

今日も、こうして、いんぐりつしゅの財産づくりが始まる。(申しおくれましたが、私、石なあー坂 teacher の連れのMr.まごのーと申します。)「さあ、これから、みんな I like いんぐりつしゅ」とイヤでも言わなくてはなりませんぞ、いいですなっつ」
「あいらく いんぐりつしゅ」あーあ…かわいそうに…おとなしくて素直な3Eの子は、完全に石名坂の言いなりだ…あのときも……

「合唱コンクール 1位をとるんじやノ」

「くーいやがる子牛をー」すごいなあー絶対絶命のはずの合唱コンクールまで…火事場のバカ力みたい。このとき私、ひさしぶりに石名坂の笑顔を見たような気がしました。最近、私、3Eの子に

やきもちをやいているんです。なぜ? だって、石名坂は、私と一緒に何年も前からいたのに、私より、3Eの子の方をかわいがっているのです…実は、いじめて楽しんでたりして…。それに、石名坂は、自分のクラスが“1位”をとれなかったときは、他のクラスのEnglishの授業であたりちらすのです。ほら、あの時だって……
女子がバレーボールでD組に負けたとき、D組の授業で女子ばかりにあてて、うつぶんばらしをしてくれたんです。

石名坂は、私を武器にして、いろいろなものをたたきまくるので。おかげで私は、傷だらけ…でも“3Eの子のため…”と思って、苦痛にたえている私…これからも、ずっとこれが続くのね…頭が? 身体がいたい…。今日も石名坂のお供を努める私、Mr.まごのーで…
「財産を増やすんじやノあいらいく いんぐりつしゅじやノ」

(鈴木、渡辺記)

◆ say good by

◆ ウーン、笑ってボン

完

◆ かぼちゃ、かぼちゃ、かぼちゃの白い花おまえのような花だった。

◆ さよならなんて言えないよ

サヨウナラー!

◆ 長かった三年間、今さら後悔はしない

・・・・ただ一言・・・俺、泰賢!

◆ 先のことからないのが今の世の中笑って終われば最高だ!

◆ 思い出だけの日々を 忘れずには・・・

この思い出に届けば・・・

◆ 窓辺の radio から・・・

・・・・愛が聞こえる。

◆ 悪いけどさよならはいえそうもない。

まだ君を愛しているから。

◆ 祝! 山本スーザン久美子合格!

◆ 明日へ向かって Let's Go

◆ みんな3年後1月1日 TEL しるよ、たぶん俺死んでると思うよ 43-11878

◆ 三年間楽しかったぞーイ!

ひは GOOD-lack GORYO

◆ やつと終った三年間

やつと終った義務教育

◆ 「ガタッ」誰だ、布施か でてけー

石川 真治

伊原 茂

岩船 憲之

河合 修二

小松 大蔵

佐々木敦志

笹田 泰賢

柴田 育弥

高橋 孝幸

田村雅道

中村 幸則

西沢 英寿

樋口 哲哉

藤本 敏広

布施 淳

◆ いつまでも

NEVER GIVE UP

◆ うつむく日は、みつめあつて

◆ 君がおしえてくれた 花の名前は

街にうもれそうな 小さなわすれな草

◆ 戸じまり用心 火の用心!

◆ だんてつたつて、吉田も卒業!

◆ もう さよならは言わないで

・・・・新しい旅立だから

◆ 41ばんのうるちよらんへ・・・

「私、せぎしただめーいすき」

◆ 三十年後に・・・

まつてるよ・・・

◆ もう卒業です。みんなさよなら元気で

ね。私はただ Going my way

◆ この胸の中 かけぬけて行く

思い出たちが 優しすぎます

◆ 私の大切な人たちへ

素敵な思い出ありがとう

◆ さよなら言わずに笑ってみるわ

旅立だもの 泣いたりしない

◆ 時のいたずらだね 苦笑いだね

冷たい風が今 吹き抜けるだけ

◆ もう一度ここで君のためぐり達えた

ら 昔のように微笑み交わせるはず...

本間 幸雄

本塚 陵

安田 進一

横山 和彦

吉田 幸司

荒木 美樹

安東 尚美

飯坂 知子

小川 久恵

金谷 律子

鎌田 陽子

黒田 正恵

佐々木美香

鈴木 裕子

◆素直なことって一番大切なことなのに

一番難かしい人だもの・ずるいよー

◆32ばんのざしきわらじちゃんへ

「私、あんこぎらーい。」

◆みんな いつまでも元気で

がんばってください。

◆人間界に来てこの3年間とつてもキッ

キッでした！ もう200に帰ります

◆過ぎた日は二度とつかめない

◆あなたの人生に乾杯

二度とない人生に

◆他人にメーワクかけないで 自由に生

きられたらいいね

◆・・・そしてきよなら。いつまでも

素敵で、無邪気な 友達でいよう。

◆三年間、私を支え続けてくれた

たくさんさんの友達と先生に感謝

◆静かに静かにねむれたら

明日はとってもいい日だね。

◆あなたに会えて 本当に良かった。

◆みんな、準備はいい？あの遠い遠い地

平線まで飛び続けるんだよ。せーの！

◆ステキなことをステキだと無邪気に

笑える心がステキさ・・・MOTO

須藤 智子

関下 美和

竹内 直子

西村真紀子

能登谷明美

林 香子子

細道 友見

曲戸 桂子

町田 智子

三上麻紀子

渡辺はつき

渡辺 靖子

鈴木 裕子

※三年教科担任のことば※

卒業にあたって



橋詰 尤子

卒業おめでとう。早いものでこれで一応義務教育は終りになりますね。(生涯教育はずっと続くのです)

さて、皆さんはこれから先、どの様な道を歩むでしょうか。人間百万人いれば百万人の人生があるといます。自分だけの道をしっかりと作らなくてはなりません。いつも自分の置かれた場において、自分の才能なり、エネルギーなりを百パーセント發揮して進んで行ってください。無気力にならず意欲的に自分の心に問いただし、その感觸をたしかめながら一歩一歩着実に進んで行ってください。基礎がしっかりとないと人生の途中でくずれることがありますからね。

健闘を祈ります。

先生 寄稿



教頭 亀 松 光 美

親からのおくりもの

私の両親は数年前、一年ちがいで母が九月、父が十月に他界しました。九月と十月といえば娘も結婚した月であり、私にとっては忘れられない月です。

毎年、この頃に、壮健であった頃の両親のこと、小さい頃の自分のことが懐古されてならない。

思えば、当時の楽しみといえば、友達と暗くなるまで外で遊ぶことであり、家族全員の誕生祝や祝祭日にご馳走をいただきながらの一家団らんにあつたように思います。

また、年に数回の家族旅行も大変楽しかった。それも旭川・札幌にいた伯父・叔母の訪問の旅行で、それが、また、私に活力を与えてくれました。伯父方から、健康が一番大切なことや社会のしくみ、親孝行をする事など、話をしてくれました。更に、楽しかったことは、同じ年齢のたくさんのお兄さんたちと時のたつのも忘れて皆でおやつを食べながら、おしゃべりをしたことでした。

ですから、父と母の葬儀の時には、親戚やいとこが殆ど集まって供養をしてくれましたし、また、四十年ぶりに当時を回顧しあいま

した。そんなことから、私は親からいろいろな心の財産をもらいました。特に私が十歳と二十歳の時の事が忘れられません。

私は普通児で生まれましたが、当時、母が弱かったためか、あまり丈夫な子ではなかったらしく、十歳の時に病気になる、長い間、薬や医者への世話になり、その上、両親と姉弟の看護をうけました。

その頃、父はサラリーマンで、最悪のサラリーマン時代の社会で家族六人の生活、それに私が病気になるまで、体の弱い母までが手のあれるのもいとわず働いたようでした。それでも苦勞を顔に出さず、いろいろと私を看病してくれました。

また、二十歳の時、私は帯広の部隊に入隊しました。その前々日に、二度とこの世にもどつてこないであろう私のために、父ができる限りの壮別会を開いてくれました。当時としては、望めない軍隊の副官数名を招き、なかなか手に入らない酒などを食卓にのせ、賑々しく祝ってくれたことです。

今日、私が健康でいられることを、今は亡き両親に心から感謝しています。「お前は、からだが弱いものだから、空気と水のおいしい函館で将来の生活を」の父のアドバイスが現在の私であると思います。更に、生活の基本は返事とあいさつ。そして、汗を流し働くことも教えてくれたのは両親であります。

生前はあまり親のために、ならなかったような気がしますが、親の他界後は、せめても、仏だんに手を合わせ、みずから読経に心がけています。

親からのおくりものである、たくさん心の財産と健康を唯一の宝として、これからの人生をつきすすんでいきたいと思っています。

3 年修学旅行記



旅行行程

日次	月 日 曜 日	行 程				研 修
1 日 目	5 月 12 日 ⑩	7:20 函 館	11:30 青 森	13:30 弘 前	18:00 十 和田	キャン プ・ フオー クダン ス フアイ ヤー
		船内見学.....車窓見学.....昼食.....体験学習.....記念写真				
2 日 目	5 月 13 日 ⑪	8:00 十 和田	8:30 発 荷 峠	10:40 尾 去 沢・ マイ ラン ド	13:00 盛 岡 (橋本記念館・ 啄木記念館)	17:30 厳 美 溪
		見学.....見学.....昼食・見学.....見学				
3 日 目	5 月 14 日 ⑫	8:00 厳 美 溪	8:40~10:40 貌 鼻 溪 口	11:30~14:50 中 尊 寺	15:30 南 部 鉄 器 工 場	17:00 松 倉 温 泉
		舟下り.....見学・映画・昼食 記念写真.....見学				
4 日 目	5 月 15 日 ⑬	8:00 松 倉 温 泉	9:00~10:30 宮 沢 記 念 館	11:36 盛 岡	14:50 青 森	18:45 函 館
		見学.....昼食.....				19:10 解 散

(備 考) ~~~~~連絡船 ===== バス - - - - - 汽車

三泊四日の思い出を各クラスからの推薦者により、日程を追って分担執筆してもらった。

出発日まで

上野 澄子

修学旅行出発日まで、あと約一か月。教室へ帰ると机の上にはスクラップブックが置かれてあった。これが旅のしおりがわり？わたしは、それを無造作にかばんへと押しこんだ。

この頃になると「同じ班になろうね。」とか「班、好きな人同志ならいいのに。」とか「ドライヤー持っていないんだって。」などという会話が活発になりはじめた。それぞれが修学旅行のことを思い浮かべ、会話の中心も、やはり修学旅行だった。(中略)

「やったあ。」いよいよ出発の日。友達のお父さんの車に乗せてもらい、棧橋へと……。出発式などうわの空。心は青森へ。いろんな人が見送る中、わたし達は乗船した。「行ってくるからね。」心の中で思いきり叫んでいた。

初日だけの紀行文

平田 衆康

十一時過ぎ、跨線橋を数回上り下りして、長いホームを、はや足で十分分後、やっと裏口らしい所から構外へ脱出。さすがに青森駅の構内は広い。跨線橋の上から眺めた配線は壮観だ。端まで見渡せない。

少し歩いてバスに乗り込む。荷物を棚に上げて座席につき窓を開けた。外の景色といっても看板だけを眺めた。エンジンがかかり、バスはおもむろに動き出した。ガイドさんへの挨拶、ガイドさんの紹介があった。(略)

「りんごの歌」「南部牛追い唄」等を聞きながら最初の目的地「ねぶたの里」なる所に到着した。ここで津軽風を作るのだ。(略)

薄暗くなりかけた頃、十和田湖グラントホテルに到着した。ここは小学校の時に来た。部屋、料理はもちろん、割り箸の袋から特別プレゼントの企画まで、全く変わらない。

食後の運動にフォークダンス。再びバスに乗り込んだ。周囲は、もう真っ暗。十和田湖は日が落ちるのが早いらしい。実際に計算してみると二十秒位だが、周りが山に囲まれているせいだと思う。(後略)

車内での思い出

中村 佳代子

あと一時間で盛岡駅に着く。修学旅行も、とうとう四日目となり、最終見学地の宮沢記念館をあとにした。私達はバスの中で、それぞれに修学旅行の思い出を胸に残り少ない東北の地を眺めていた。

今度の旅は、バスの利用が多く、私は今までのバスの中でのことを思い出した。

一日目。初めてバスガイドさんと会った。

長い連絡船での疲れと初めての長い旅への期待で、私は、あまり素直にバスガイドさんに接することができなかった。私達のそんな行動が、ガイドさんとの間に小さなき裂を生じて、お互いにこのままではいけないと知りながら、この日は終ってしまった。

二日目。昨日の行動の後悔の念にかられながら私達はバスへと乗った。(中略)

三日目は、中尊寺の見学があったせいもあり、ガイドさんとの交流もわずかながらではあったが進歩をみせはじめた。

車内でのレクも活気がわきあがろうとしていた。けれども、結局、お互いに望んだような

活気のある楽しい車内での行動は、できず少しづつ後悔の念が、一人ひとりの胸に広がっていった。(後略)

感動の

「マインランド尾去沢」

田 中 玲 次

五月十三日。バスの中から見た尾去沢鉱山は、きたなく見えた。でも、坑内はきれいだつた。

時代の先端をゆくマグシーバーで説明を聞く。坑内は涼しく、バスで酔っていたばかりは天国に思えた。歩いているうちに広い所へ出た。そこは、上と下とをものすごく掘っている所だつた。千二百年の歴史の跡に感動した。

突然、前の人のカラーやくつが光り出したのだ。自分のくつを見ると同じように光っているのである。おまけに、学生服にどろみたいのがついている。あわてて取ろうとした。しかし、取れない。よく見ると、ほこりが光つて、どろに見えたのである。どうしてだろうと思つてみると、上に輝いている電光のせいだつた。この光が作り出す、すばらしい芸術美に感動した。

また、すごいのがあつた。人間が石のように動かないのだ。初めは、本当の人間だと思つて目をそらしてしまつた。今度は、その人形が動いて、鉄鉋を削っている。なかなか演技が細かつた。

洞窟が終わると売店に出た所がにくかつた。思わずそこで、おみやげを買つてしまつた。

今、考えると、あのマグシーバーの説明を一つも覚えていないのが不思議だ。記憶に残っているのは、日本昔話みたいな声だけ。でも、この体験は、ぼくの心の中に根をはり、いつまでも生き続けることだろう。

「中尊寺」

堀 江 洋 一

中尊寺といえば金色堂。何となく連想ゲームのようだが、全くそのとおりなのだ。ぼくは、先生から「この場所は、今回の旅行の目玉品だ。」と聞かされていたので、とても楽しみにしていた。しかし、実際に行つてしまうと寝不足というか疲れというか、もうくたきただつた。が、中に入つたら、そんなものはすっかりなくなつて、目がぱっちり開いてい

た。その瞬間、感動して思わず「見なくちゃ損」といった感じで一杯だつた。もううれしくてうれしくてたまらなかつた。ちよつとそこから見られるものとは訳が違つたからだ。一つ一つのものが、何となく昔のものではないような気がした。刀もあつた。今にも人が出てきて、ぼくを切り殺してくるような変な錯覚に襲われた。ずんずん引き込まれて見えているうちに、タイムスリップしているようになった。道具類などを見ると昔の人の生活の様子が浮かんでくる。

ものすごい臭いがぼくの鼻をついた。線香である。鼻はあまりいい方ではなかつたが、この時ばかりは、たまらなかつた。すると、その煙にかくれた仏像が姿を現わした。あんなに大きい仏像、というより仏像そのものを見たのが初めてだつたので、もうただただ感動していた。

二階の展示物のほとんども国宝や重要文化財の指定を受けたもので、それぞれに見ごたえがあつた。

金色堂の仏像も、ものすごくよかつた。それもそのはず、この金色堂は藤原清衡が造立したもので、お堂全体にうるしを塗り、金箔を押してあるそう。そのうえ、阿弥陀如来

を本尊とする十一体の仏像が安置され、極楽浄土の善美を表わしているそうだ。造立にかかった歳月は、何と十六年。ここには、藤原四代の遺体が安置されている。

私達は、昼食後、この藤原四代についての記録映画を見た。日本では数少ないミイラの中で三代も続いているのはめずらしい。ぼくは、話を聞いているだけでも、もう無残なのがアッという間になってしまった。が、なぜか最後まで、もちろん聞いていた。藤原氏は、清衡、基衡、秀衡の三代の約百年間栄えたが後に、源頼朝によって滅ぼされたのである。が、この三代の残した文化はいつまでも滅ぶことなく伝えられていくだろう。

中尊寺見学

木田 圭

五月十四日、修学旅行三日目。今日は平泉中尊寺に行く。今日は、ここと南部鉄器工場だけで楽しみにしていた。けれど、昨晩の寝不足と酔いこそしなかったが、乗り物疲れで初めの勢いはなくなつてしまった。平泉へ着く頃には、もう見学する気などなく、早く松

倉温泉へ行きたいと、そればかり考えていた。

そんなぼくの心を知つてか知らずしてか中尊寺は小高い丘の上にあつた。目の前に続く急な坂道を見て、思わずその場にすわりこんでしまいそうになつたのは、ぼくだけではないと思う。でも、そんな疲れは強引に回復。何よりも緑の摩天樓の奥にある金色堂は、ぼくの好奇心をかきたてた。坂を登りながら、ふと思つたりした。中尊寺といえば金色堂かと思ひ浮かばないのだ。金色堂そのものが独立していて、すでに寺としての感覚を失っている。これも金色堂が有名過ぎるための錯覚か。そんなことを考えながら記念写真を撮り、大きく深呼吸をした。まわりの緑が美しかった。緑色が人の心をおだやかにするというのは本当だ。ぼくは、落ち着いた気持ちで見学することができた。

金色堂。やはり中尊寺のハイライトだ。これを見なくして、ここに來た意味がない。国宝だけあって、保存その他に気をつかうのかガイドさんの説明の聲が大きく聞こえた。いよいよ覆堂の中へ入つていった。建物全体の金。精密な装飾。その外見とはうらはらに、こわい程落ち着き払つた空間をかもし出していた。そう感じるのは、ぼくだけだろうか。

讃衡堂、月見坂、資料館などを見て帰つてきた。満足の花が心の中で咲いたような気がした。充実感がわいてきた。

啄木記念館

鈴木 理加

館内に入ると、目の前に大きな額があつた。中には、行書で「東海の 小島の いその白砂に われ泣きぬれて 蟹とたわむる」と書かれていた。「私の大好きな詩があつた。」啄木記念館にあつたのが、とてもうれしくて、何回も黙読した。字を何回も目で追つていたので、他の人から見ると、上下に目が動いておかしく見えたかもしれない。このとき、啄木が、この詩をつくつていている様子を想像していた。他の展示物を見ても、さつきの詩が強く印象に残つて、何がどこにあつたのかよく覚えていない。

左の角を曲がると、突然古いオルガンらしい物が目に入った。オルガン類には興味があるので、そばに行つて見た。

鍵盤がさかれていたり、黒鍵の所の色がはがれていたりして、ひどく傷ついていた。

「まさか。啄木は、曲も作っていたのかな。鍵盤がひどいから、何回も何回もひいたんだろうか。」と考えた。啄木がオルガンをひいている姿を考えると、少しおかしくなってきた。「このオルガンは、どんな音がするんだろう。ひいてみたいな。」（中略）

記念館を出る時、もう一度、あの詩を見直した。その時、「どうして、啄木は函館で死にたいと言ったのかな。」と、理由もなく考えていた。

舟下り

後藤 栄司

「これもしかして砂金じゃないかな。取ってみよう。」とか「魚が泳いでる。」などと、いろいろな声がとび交っていた。

ここ狛鼻溪は、平泉より東へ約十五キロメートルの所にある。あたりは絶壁に覆われていて、何となくのみこまれそうな感じがした。百数十メートルにも及ぶ断崖絶壁の合間をぬい、船頭さんが「狛鼻追分」を高らかに響かせて唄ったとき、だれもが気持ちよく感動して聞いていた。

船頭さんが十三の名所を紹介してくれたがどれもみな「なるほど、これはすごい。」というものばかりだった。

岸辺についたのでフリータイムになった。舟下りをする前、バスガイドさんに「岸辺から少し離れた所に石の穴があり、その穴に石を投げ入れることができれば願いごとがかなう。」という説明を聞いていたので、いちもくさんに石の穴のある場所へ行った。行ってみるとすでに何人もの人達が挑戦していた。対岸の岩穴めがけ、ばくも負けずに投げた。七八十メートルもあろうか。いくら投げても入らない。だんだんに興奮してきたのが自分でもわかり、絶対入れてみせると意地になった。先生が「帰るぞ。」といった。あせって何発も投げた。最後の一投が「ストーン」と入った。その時の感動は今でも覚えていいる。そのかわり景色のことは全然覚えていない。

宮沢賢治記念館

横浜 真喜

雨ニモマケズ
風ニモマケズ……

この詩は、宮沢賢治の代表作の一部分である。五月十五日の最終日、草木のおおい茂った山の中に、建物、白い壁が美しく映えていた。

賢治は、東北の代表的詩人であるが、最も注目すべき人物ではなからうか。（中略）

記念館の中には、小さなプラネタリアウムがあつて、いろんな星の数々が、真近で見ることができた。「銀河鉄道の夜」などの原稿の色あせた紙面から、何か神秘的なものを感じた。どんな……と聞かれると、わからない。見ることができた者だけの感覚であらう。

こういうこともあつた。私が興味をもったのは、賢治とその関係者の写真だった。ちょっと暗めで、その中に、りんとした、しんの通っている人のような、人生とか生きる意味についての、ひしと感じさせる写真がいっつかあつた。一度会つて、ちよつとお話してみたい……なんて感じの人。けれども彼はもういない。この人の人生観というものを、じっくりと考えてみたいものである。また、この人の文学の全てが、農民と一緒にあるようだ。そこにも、彼の思想の何かが寝ているような気がする。

まさに、宮沢賢治という人は、私をひきつけてはなさない、魅力のある人物であつた。

演芸会

須藤 智子

三日目の宿泊地は岩手県松倉温泉、水松園。旅行最後の旅館なので、みんな思い出を一つでも多く作ろうと必死だ。

旅館の入口で対面式を済ませ、入室した。班長からの報告も終り、大広間で夕食を食べた。その後「鹿おどり」を見た。皆しーんとしてみていた。私も、とっても楽しい食後のひと時を過ごすことができた。

待ちに待った演芸会だ。鎌田さんの挨拶から始まった。あの時の挨拶は、本当いつて驚かせられた。鎌田さんは、ただ者ではないと、うすうすは気づいていたのだが、あらためて思い知らされた。本人も石津先生にほめられて、すっかりその気になっていたようだ。その夜、大変だったことはいうまでもない。

さて、演芸会が始まった。A組は「かえるの歌」の輪唱。聞いている方は、何をやってるのか、ほとんどわからなかったけど、やっている人は、とっても楽しそうだった。B組は「ばいばい歌」など、意味がわからない

のうけていた。どの歌も、うまいへたは別として、みんな、とても楽しんでた。また、この演芸会は、先生と生徒が一緒になって楽しむことができたし、何よりも、自分達の手でやりとげたという満足感があつた。

旅館での思い出

久保田 和 宏

修学旅行で、一番思い出深い所といえば、やはり旅館という人が多いと思う。

第一日は「十和田グランドホテル」この日に企画されたキャンプファイヤーなるものはさんざんだったが、今思い出せば、良き思い出の一コマとなっている。

第二日目の旅館は「溪泉閣」ここの売り物は、何といつても、旅館のすぐ裏を流れる厳美溪だろう。窓をあけると、とても美しい川が見える。部屋もきれいだし、いうことのない旅館だった。

最終日は「水松園」さすがにみんなの顔に疲労の色が出てきた。この日は催し物がたくさんあった。特に、ぼくの心をとらえたのは夕食後すぐの「しし踊り」だ。このような踊

りをじかに見たのは初めてだ。五人の人が心をつにして踊っているのを見ると、郷土芸能の良さというものが少しわかったような気がする。

楽しい演芸会も終り、最後のキャンドルサービスとなった。電気を暗くし、ムードは最高潮に達した。この演芸会やキャンドルサービスも、生徒自身で考案、実行されたものである。この点は、良かったと思う。

この三日間の旅館での出来事は、全てぼくの一生のよい思い出となるだろう。

帰途の列車内にて

林 香子

お土産でふくらんだバッグをどうにか荷物棚の上へ上げてホッと一息つく顔。心なしか疲れたように見えた。そこは四日間のスケジュールを終えて青森へ向かう列車の中である。発車とともに、みな思い思いの行動をとり始めた。写真を撮られても気づかないぐらいに眠ってしまう人。お菓子を持つて、あちこちうろつく人。相変わらずおしやべりする人(私もその一人)写真を撮りまくる人。四日間

みちのくにいたんだという感慨はあまりなかった。でも、修学旅行もこれでおしまい。あとは家に帰るだけだなと思うと、少しさみしくもなった。(中略)

しばらくして、お弁当が出た。こけしの顔した可愛い器。中味はあまりおいしいとは思わなかったが、ちその葉にくるんだカラシには飛びあがった。梅だと思つて思い切りかみつけたものだから。

窓に海が見えた。幾つかの駅を通過。私はこうしてしばしお世話になったみちのくから遠去かつていた。

帰りの連絡船

高橋 孝 幸

五月十五日水曜日午後二時五十分――。

そう、この日は修学旅行第四日目。ぼく達は青森から函館に向かつて、最後の旅に出た。

この四日間、ぼく達は、尾去沢や猊鼻溪、中尊寺など、たくさんさんの所を短時間で、せわしなく回つてきた。見るもの見るものが、どれも初めてで新鮮に感じられ、普段の学校生活ではみられなかった緊張の毎が続いた。

そのせいか帰りの船内では、張りつめていた緊張の糸がプツリと切れたような感じで、皆の表情は、どこか明るく、さっぱりしているように思えた。

しかし、三泊四日の日程は、かなりハードだったため、皆の表情の奥には、疲労の色が濃くにじみ出ていた。この四日間、ぼく達は日常生活を離れて、とても楽しく過ごしてきた。アツという間に時間が過ぎ、あつけない感じもした。できれば、このままずっと旅を続けていたい。そうも思った。(中略)

下船の時が来た。今まで疊つていた空も晴れ、真つ赤な夕焼けが船内に差し込んできた。

以下は、個々にまとめた紀行文である。その中から、？編を紹介しよう。

思 い 出

平 光

五月十二日に函館港を出発して四日間、今まであまり触れたことのない地方に行つて、色々修学旅行でなければできない、本当にすばらしい貴重な体験をしてきた。その中

も特に印象深かった数々の思い出を取り上げて、これを私の旅行記としたい。

まず、第一日目。私は、この旅行の第一日目の行程表に目を通したとき、興味深く感じたのは、体験学習であつた。今まで、こんな経験がなかったからだろう。実際、何人かグループになつてやつてみた時、周りの人達に教えたり教えられたりしておもしろかつた。出来上がった作品を見て、本職さんには劣るけど、自分ながら苦労して作った作品は上手に見えた。と同時に、愛着さえ感じられた。私は、この体験学習で、自分の作品を作る喜びと、その作品が完成した時の感動というものを覚えた。

ちよつと曇りがちの第二日目。この日は、それぞれ違った分野の場所に見学に行つて、どこも印象的だったけど、やっぱり自分ではマインランドを取り上げたいと思う。

まず、バスの中からマインランドを見て驚いた。とても大きい。中に入って深く掘られているところなんか、吸い込まれそうなくらいだった。あの大きな鉱山をあれだけ掘るには、かなりの年月がかかったに違いない。あの鉱山を発見し、採掘した最初の人々はすこいなあと思つた。現在あるのは、必ず過去が

あつたのだから。

第二日目。中尊寺金色堂は、写真で見ると、ずつと迫力があつた。あのような古い物やミイラが今まできれいに残っているのが、なんとなく不思議に感じられた。実際、あの中尊寺で昔の人達がどうやって生活していたのか興味深い。大仏があつたというのは、昔も今も平和を願う気持ちは同じなんだなあとて思えた。今まで東北の歴史を知らなかったで、とてもおもしろかつた。

最終日。三日間がとても早かつた。天気も良く、気持ちよかつた。宮沢記念館にも行き宮沢賢治の生き方がよくわかつた。宮沢賢治は、影で人より多くの努力をしていた人だと思ふ。でも、人に対して優しく温厚な性格だつたと思ふ。そんな人になりたいと思つた。雨にも風にも負けない人間になりたいと思つた。(後略)

修学旅行を終えて

菊池昌隆

五月十五日七時十五分、ぼく達は函館を離れ修学旅行に出発した。長い時間、船やバス

に揺られ、昼すぎ、体験学習で金魚ねぶたを製作した弘前に着いた。

会館に入ると、ロウの臭いが漂っていて、なぜか緊張してしまつた。ロウの臭いは頭にクラツときて、あまり気持ちの良いものではなかつた。あらかじめ成型された張り子にロウを塗り、その上から着色して出来上がる金魚ねぶた。ぼくは簡単なものだと考えて製作にとりかかつた。が、結構面倒な作業であつた。人に買ってもらえるようになるまでには約二千も作り続けた後だという。生きていくということとは大変なことだと痛感した。

翌朝、鳥の鳴き声で目を覚ました。やけに痛い体を持ち上げ、窓の外を見ると数羽のツバメが飛び交う光景が目についた。都会では絶対に見られない光景に自然の良さを強く感じた。

この日の目玉、マインランド尾去沢は神秘的で美しかった。しかし、その中には恐怖を象徴するものもいくつかあつた。巨大な岩の裂け目をのぞくと、そこには驚異が渦まいて笑つていた。鍛錬された坑夫でも、一日に三十センチ程度しか掘れない時代もあつたという。ローソクや竹先に火をつけたものだけが、明かりで、それだけがたよりだつた。そんな

仕事を毎日続けるのだから、当時の人にとつて地獄そのものだったのではなかつたか。

この日泊まった宿が一番印象深い。すぐ横に厳美溪があり、それは二日間の疲れをどこかに吹きとばしてくれるような新鮮味があつた。岩がからみ合う溪谷は、とても力強い感じを与えてくれた。その名のとおり、厳しさの中に美しさがある素晴らしい溪流のささやきを目に、その夜はぐつすりとお眠ることができた。

三日目。ぼく達は二つ目の溪流、猊鼻溪へと向かつた。ちょうど悪天候で、乗った舟に屋根がついていたために上の方が良く見えなかつたのが、とても残念だつた。しかし、周りの景色は素晴らしいものばかりだつた。川の両側には、切り立つた巨大な岩が、上からまるで見下ろしているようにそびえ立っていた。左右上下、どこを見ても「自然」だけがぼく達を取り囲んでいた。

厳美溪も猊鼻溪も、永遠に自然の素晴らしいさというものを失わないでほしい。そう考えながら次の目的地、中尊寺へと向かつた。

(後略)

文苑

校内弁論大会最優秀者論稿

同じ人間同志

一年 伊藤 たまみ

よく「白人は黒人をきらい。」と言われますが、それはいったいなぜでしょうか。

私は、二年前の夏休み、それは小学校五年生の時ですが、親せきの家に行ったことがあります。その時、電車の中で一人の黒人に出会いました。私は黒人を見るのが初めてでしたので、ずっと黒人の方ばかり見ていました。今思えば、少し失礼なことをしたと思っています。

しばらくして、黒人は私の視線に気づいたのでしょうか、私を見て、ほほえんでくれたのです。たった今、電車の中で出会っただけなのに、ほほえんでくれた、そのことに私は

うれしくてたまりませんでした。そして、私もうれしさのあまり、ほほえみ返しました。

しばらくして、四、五人の中学生の男子が電車に乗ってきました。私は、その中学生を見たとき、たんなる悪い印象を受けました。それは、黒人をばかにするのではないかと思ったからです。数分もたったのでしょうか。私の思いどおり中学生達は、黒人をばかにしました。それも黒人の方を指さして笑っているのです。私は、そんな態度の悪い中学生をだまて見ていることができませんでした。そして、思わず「バカにするんじゃない」と、大声で叫んでしまいました。すると中学生達は、私の方を変な目でにらみました。でも、周りの大人達が中学生に声をかけましたので、彼らはおとなしくなりました。黒人は、日本語で「ありがとう。」と言いながら電車を降りていってしまいました。

私は、その中学生のことに、とても腹が立ちました。それと同時にがっかりしました。それは、日本人の中に黒人をひやかす人間がいたからです。

私は、そんなことがあつてから差別ということを身近かに考えるようになりました。体の不自由な障害者をひやかしたりすることも

差別といつていいでしょう。

でも、そんなことをする人達は、人間ではないのです。人間というものは、黒人や障害者をひやかしたりするんじゃない、思いやりをもって、そういう人達に接していく、それが人間というものではないのでしょうか。

それでは、なぜ黒人や体の不自由な障害者をひやかしたり、いじめたりするのでしょいか。それは、同じ人間でありながら差別する心をもっている人がいるからです。差別する心は、決してもつてはいけません。ちよつとした心でも、どんなでもないことが起きてしまうからです。

黒人、白人、障害者は、みんな同じ人間同志なのです。ひふの色の違いとか、障害者と普通の人、つまり健康者とかの区別はなしにお互い人間同志、すべての人が手をとりあつて、平和な世界をつくつていかなければならないと思うのです。

進んで清掃、きれいな学校

二年 関口 華 織

わたしたちの学校には五稜三訓があります。

その一つに「進んで清掃、きれいな学校」という一訓があります。このおかげで、整美委員が中心となって廊下のモップがけをしたり、何名かの生徒が進んで休みの日に学校へ来てペンキぬりをしたりなどして、学校は見違えるようにきれいになってきました。

しかし、わたしたち一人一人が本当に「進んで清掃をしよう」という気持ちを持っていられるでしょうか。「学校をきれいにしよう」と努力しているでしょうか。わたしたちは、残念ながらそうでないと言わざるを得ないと思います。

みなさんは掃除当番の時、どんな気持ちで掃除をしているでしょうか。「べつに自分の家でもないんだし、こんなめんどくさいこととは早くおわらせてしまおう」このような、いいかげんな気持ちでやっている人がほとんどではないでしょうか。中には、机一つ運べば、もうやったんだという人もいます。これでは「進んで清掃をしよう」という気持ちがかくなくのと同じことになると思います。

また、教室や廊下にゴミがおちていた場合、みなさんならどうしますか。進んで拾うでしょうか。そうではなく、先生に言われた時以外なら知らないふりをして通りすぎてしま

人が、ほとんどのではないのでしょうか。これは、ほんの小さな事ですが、学校をきれいにしようとしていないという事になると思います。

学校は、わたしたちが生活するところです。それなのに、もしそれを使うわたしたち自身清掃しなかったら、どういうことになるでしょう。ゴミはあちこちにちらかつています。学校の中がほこりっぽい、そんな状態のところでは勉強したり運動したり給食を食べたりなど、とてもする気にはなれないのではないのでしょうか。ですから、わたしたち生徒全員が「進んで清掃して、自分たちの生活する学校をきれいにしよう」という気持ちを持つことが大切だと思うのです。この気持ちを一人一人が持つていけば、いつでもゴミがおちていない、すみずみまで掃除のゆきとどいている、今より、よりいっそうきれいな学校になると思うのです。

「進んで清掃、きれいな学校」さあ、みなで、これを実現させようではありませんか。

五稜三訓について考える

三年 樋口 哲哉

みなさん。みなさんは五稜三訓を覚えていくでしょうか。

につこりあいさつ 明るい一日

進んで清掃 きれいな学校

自主的判断 みんなで協力

この三つでしたね。

みなさんは、この三つを、いつも忘れないで実行しているでしょうか。

例えば、「につこりあいさつ 明るい一日」ですが、みなさんは、心からあいさつをしているでしょうか。ぼくは、毎朝思うことがあります。それは、朝に先生や生活委員が玄関の前に立って、あいさつをしていることについてです。みなさんは、先生方や生活委員に対して、一応あいさつをしています。でも、形式だけのあいさつをしているように見えます。それは、先生が立っているからだと思います。もし生活委員だけだったらどうでしょう。きつと、ほとんどの人は、す通りしてしまふのではないのでしょうか。「べつにあいさつなんかしなくたって何の変わりはないじゃないか。声をだすだけむだだ」という考えを持っている人もいるのではないのでしょうか。ぼくも最初は、そういう考えがありました。ところが、考えが変わりました。それは、今

年生活委員で週番活動をするようになってからです。朝、学校に来たら、みんなに「おはよう」そう言って、につこりとあいさつをすることに、その日一日が楽しい学校活動を送ることができる。そういうことに気がついたのです。みなさんの中にも、すでに気がついていてる人もいないのでしょうか。もし、おはよう」と言った時、だからもありさつが返ってこなかったら、どんな気持ちになるでしょう。きつと一日が何となくすつきりしないのではないのでしょうか。みなさん、お互いに心から「おはよう」と言い合えるような学校生活を築いていこうではありませんか。

次に「進んで清掃 きれいな学校」について考えてみたいと思います。

みなさんは、掃りの清掃を自分から進んでいっしょうけんめいやっているのでしょうか。ぼくのクラスの例をあげてみましょう。ほとんどの女子は進んでやっていますが、男子はたいてい遊んでいたり、掃除をしていてもいやいやながらやっている場面がよく見られます。実は、ぼくも掃除は好きではありません。しかし、ぼくは班長という立場もあって、やっていない男子には声をかけることがよくあ

ります。男子も女子と同じように、進んで清掃ができないものでしょうか。簡単なようではなかなかむずかしいことです。しかし、いややつたのでは、すみずみまできれいにありません。進んでやるともつときれいになると思います。

みなさん。改めて一人一人が自覚を持ち、進んで清掃することを心がけようではありませんか。そうすることによって、みんなの学校生活が気持ちよいさわやかなものになると思います。

最後に、「自主的判断 みんなで協力」ですが、自主的判断とは、具体的には、どういうことでしょうか。それは、一人一人が物事に対して積極的に自分の考えを述べることだと思えます。例えば、この前の運動会では、どうだったでしょうか。みんなが積極的に自分の考えを述べたからこそ成功したのだと思えます。また、自分の考えを述べた上で、みんなで協力というの生まれくるのだと思えます。

我々みんなで作った五稜三訓です。自分たちで作ったのですから、これらのことをいつも心がけていきましょう。そして、明るくきれいな学校にしようではありませんか。さら

に、自分の考えをはっきり持って協力し合うそんな学校生活をめざして築いていこうではありませんか。

自己を見つめて

充 実 感

三年 山 根 慎太郎

校舎は暗く静まり返っていた。そんな中でただ一箇所、明るく活気づいているところがあつた。「みんな、がんばって早く終わらせよう。」どれかの声が響いた。その日の仕事の内容は、生徒会用のプリントを作ることだった。刷り上がった何種類ものプリントを手ざよく重ね、ホチキスでとめていく、なにしろ全校生徒の分を作らなければならないので、大変な数になり、いつもよりハードな仕事だった。だから途中で投げ出したくなることも何度もあった。しかし、迷っているひま

はなかった。とにかく終わらせなければ。

家に帰る途中、一人で暗い道を歩いていると、とてもすがすがしい。今までに感じたことのない気持ちになった。この時、ぼくは初めて仕事を終えたあとの充実感というものを感じた。今までにはなかった。生徒会に入ればなんとなくよかったという思いがぼくの心の底からわいてきたのも、その時だった。

それまでの自分は、生徒会というものを少ししかげんに考えていたと思う。なんとなくなるだろうという考えが、いつも心のかたすみにひそんでいて、自分に与えられた仕事さえも、十分にこなしていなかった。しかし、そのような甘い考えを捨て、無心になって働いていたからこそこのようなすばらしい体験ができ、生徒会に入つてよかったという気持ちを起こさせたのだろう。

そもそも、ぼくが生徒会総務に立候補した理由は、そろそろ学校行事の中心となつて働けるような、そんな責任重大な仕事について自分を鍛えてみたいと思つたからである。しかし、その目的も不十分のまま一年が過ぎてしまった。けれども、自分なりに精一杯働いたつもりなので悔いは残らない。最初は仕事をするのがいやでしうがなかった自分が、

仕事をしたいというまでに進歩したのだからそれだけでも、すばらしい経験になったと思う。これからの生徒会を作り上げていく後輩たちにも、ぜひ仕事をすることの喜びや充実感を知ってほしい。それを知ることによって、生徒会役員たちの“やる気”というものが高まり、よりすばらしいものになっていくにちがいないからである。

自分の一年間の生徒会総務局員としての活動というものを振り返ると“生徒会全体の前進”という大きな目的は果たせなかったが、仕事を終えることによつてのみ体験できる“充実感”というすばらしいものを得ることができ、自分自身のはかりしれない前進となつたように思う。これから先、自分がどのような体験をしていくかは、わからないが、この貴重な体験を踏み台として、いつもその上をめざす気持ちを持ち続けたい。

最後までやり遂げる心意気

三年 小田桐 淳

監督からの指示を受け、イレブン全員で作戦をたてた。皆と話しているうちに、多少、

緊張が解けたので、応援生徒に目をやることのできた。だが、それは中断された。なぜなら、私の目の中に、三年生でイレブンに入らなかった控えの選手が目に入ってきたからだった。彼らの中には、最後まで試合に出してもらえなかった者もいた。だが、しかし、そういう彼らのその目の目は輝いていた。サッカー部に入つて最後の行動をとつたその日の彼らの目は輝いていた。私に昔のことを思い出させるかのように、やさしく――。

自分たちが一年生の当時の三年生が引退していき、新しくレギュラーが決まつた。そのイレブンの中には、一年生が六人入つていた。だが、私はその中に入つていなかった。私はレギュラーになれなかったことをあまり悔しく思わなかった。来年があると思つたし、同年生がまだたくさんいたせいだろうか。

二年生当時の三年生が引退していった。また、新たにレギュラーが決まつた。そのイレブンは全員二年生だった。その中には、私も入つていた。確かに嬉しかった。だが、レギュラー以外の三年生はどうだったであろう。グラウンドに余裕がないので彼らは、ボールをそれほど思いっきり蹴ることもできない。加えて、彼らは四人たらずよりおらず、後輩にま

じって練習していた。心の中では「不満」と「我慢」が混合した感情が、もはや爆発寸前であつただろう。どれだけ辛かつたことか。それを口にくそ出さなかつたが、目にそれが表れていた。その目を見ていると、入部當時を思い出さずにいられなかつた。

入部した時は、皆の間には差がなかつた。皆は、けつこう榮しくやつていた。だが、レギュラーになつてゆく者がふえていくにつれ実力の差も開き、多少熱意の間にも差が開いていったのであつた……。

——ハーフ・タイムも終わり、前半、後半も一対一のまま終わり、延長戦にもつれこんだ。だが、延長戦も得点が互いに入らず、ついにPK戦となつた。その結果、三対四で惜敗した。三年生の中体連、一回戦、銭亀沢中学校との試合である。全てが終わりベンチにもどつた。もはやいうまでもなく、一番気にかつたのは、彼らの目だつた。今までの寂しさはなく、やさしさで輝いていた。彼らの目が、我々に一番心から「くろう。」といっているような気がしてならなかつた。

彼らが、ここまでやつてきたあの根性と我々を影で見守つてきてくれたその真心をたたえると同時に、その気持ちの持ち方を尊敬し、

私がこれから生きていくうえで、このありがたい経験重視していくつもりである。

人に聞かせること

三年 松下 聖子

音楽つてすばらしいなあ。中学に入學した時、吹奏楽部の演奏を聞いてそう感じた。全員が一つ一つの音に神経をとがらせて美しい音楽を作りあげていく。そんな先輩たちの姿に、私は感動した。そして吹奏楽部に入部した。

しかし、音楽を作ることとは、私が考えていたような容易なことではなかつた。

私が一年生の時、恵山に合宿に行った。恵山についてすぐにロングトーンだつた。外に出、山に向かってトランペットを吹いてみたが、音は全く響かない。それで少しびつくりした。「まるくなつて。」「フォルテでロングトーンだ。十六指ずつ半音階で二オクターブ。」こんな調子で、金管の人は約二時間のロングトーンをやらせられた。みんなコンクールめざして必死だつた。その他、学校のグラウンドよりも広いところを十周も走らせられて、

すぐきつかつた。そのすぐあとに休みもなくロングトーン。もう曲に入るだろうと思つたが「今度は腹筋百回!!」もうくたくただ。

結局、曲に入つたのは、日が暮れてからだつた。夜おそくまでの練習。次の日も、朝から練習だつた。もうやりたくない何度思つたことだろう。でも、どうしてもメンバーに入りたくて、黙つて続けた。その日の夜にメンバーの発表があつた。だんだん名前が呼ばれていく。一年生は、あまり入っていない。自分はいれるだろうか。「次、ペット。」ドキンとした。まず、先輩たちの名前が呼ばれた。「次に松下。」呼ばれて安心した。うれしかつた。一年生でメンバーに入れてもらえるなんて。でも、先輩たちの中でメンバーに入れたかつた人がいて、とてもかわいそうだつた。

厳しいんだなあと思つた。

あれからはや二年たち、今三年生。最後の思い出として、ぜひ全道大会に行き金賞をとりたい。三年生はみんなこうだろう。しかし、地区コンクールで一位になり全道大会に行けることになつたが、安心したのか心にゆるみがあった。この間も先生に「このごろお前たち、だらだらしてきてるぞ。」と注意された。あと何日かで全道大会だ。みんないい演

奏をしてきたい。金賞、銀賞なんて関係ない。音楽って人に聞かせ、感動させるものだろう。だから私たち吹奏楽部は札幌厚生年金会館で悔いのない、そして多くの人々に私たちの演奏を聞かせてきたいと思います。

努力と進歩と苦勞

三年 小野寺 靖

ぼくが吹奏楽部に入部しようとしたきっかけは、文化祭の時に吹奏楽部の人達が楽しく演奏しているのが、入部を誘ってきたからである。

入部した時にすぐチューバという楽器を持たされ、音出しから始めた。その時は、思いどおりに音を出せなかった。これからは苦勞しないと吹けるものではないということがよくわかって、一生懸命やり出した。

半月たつて、初めて曲を全部吹けるようになった。この時ぼくは「苦勞と進歩」に驚いた。苦勞を乗り越えれば進歩につながると思った。吹いて楽しく演奏できることが、この吹奏楽部の良いところだとぼくは思う。

それから、また二か月あまりたち、地区コンクールも一か月後と迫ってきた。部員も気

合が入ってきて、ぼくも負けずに、地区コンクールの時、今までの努力、苦勞をステージでの演奏で出したいと思った。そのためには今まで以上に練習をしていかなければならないと思った。

コンクール前に二日間の日程で合宿を行なった。この時、昨年全道大会で金賞をとった先生に聴いてもらった。その評価は「このままだと全道大会に行けないぞ、前よりは音はのびているけど音量が足りない。ぼくは、こう思った。「全体的にロングトーンが足りないのだな」と。それからパート練習に切り変わった。ぼくは外に出て、音を海の方に飛ばした。このように合奏、パート練習と交互に行なっていた。一時間三十分くらいオーバーして、きびしい練習が一日目を終えた。二日目はハーモニイを中心に練習をした。二日間の合宿が終った。この時、先生は「みんなよくやつたので全道大会出場になると思う」と言ってくれた。ぼくも「進歩したなあ」と強く感じた。

地区コンクールの当日となった。学校での練習は、ぼくも含めて全員緊張して吹いている様子だった。出発前に先生は言った「今までやったことをそのままステージで演奏しろ。」

この時、ぼくは安心感を持った。なぜかという苦勞して、今まで努力してきたのだから当然自信があるからである。コンクール会場についた。この時から、なぜか体がふるえてきた。チューニングがあり、ステージ横まで来た。手足がふるえて落ち着きがなくなってきた。演奏が始まったと同時に、なぜかふるえがとまった。安心して、リラックスして吹けた。でも、いやなことが起きた。それは指揮をその時見ていなかったせいか一拍速く入ってしまった。この時は「みんなにすまない。」と心の中でいった。間違ったあとの演奏は、音を思いっきり出せないで終ってしまった。ちよつとの不注意だったので、すぐ後悔した。

発表の時「どうか全道出場できるように。」と願っていた。「もしぼくの失敗が減点になったら。」と思っているからである。全道出場が決まった。ぼくは、最高に喜びを味わった。この努力と進歩と苦勞が必要だったのだとはつきりわかった。部活に入つて、大変思い出深いことを残したと思う。



一年間のテニス部活動

三年 岸 美由紀

二年前の四月、私は五稜中学校に入學した。兄から少し聞いていた部活動。小学校の時のクラブとは違って本格的なものだ。なんとなく大人の世界に入るような気持ちだった。私は母からの勧めと自分の意志とでテニス部に入った。三年生の先輩たちが自分より二つしか年が離れていないのにすごく大人びて見えた。私たち一年生が初めてお互いに会った時は緊張したものだった。全く知らない人たちも中にはいた。でも、すぐ皆友だちになった。友人交流の範囲がぐんと広まったのである。いよいよ放課後の練習が始まった。一年生は素振りの形を完全なものにしなければならなかった。だから何回も何回も先輩から注意され、鏡を見ながら練習をした。途中、何度もしやになった。でも、まわりの友だちも一生懸命やっているのを見ると自分もがんばらなくてはいけないという気持ちになった。そんな中にも楽しいことがあった。先輩たちがくるまでに乱打することだった。形はどう

あれ、自分はテニスをしているという満足感到にひたれたからである。

七月、三年生の先輩たちは引退した。今まで何かと手とり足とり教えてくれた先輩たちがみえないとなると寂しい気持ちになった。でも、これからが本格的な自分たちの練習が始まると思うとうれしい気持ちにもなった。

冬が段々と近づき、外はすぐにボールが見えなくなるほど日の落ちるのが早くなった。

いよいよ雪が降りはじめ校舎内での練習が始まった。ほとんどがランニングと素振りだった。この頃だろうか。少しずつ自分の成績が上がってきてテニスに熱意がこめられなくなったのは、今考えると成績が良くても立派な部を続け楽しんでいる人はいくらでもいるのに自分が情なく思える。

冬休みの練習。私の友だちの何人かが部の練習の後、先輩の家へ誘われた。先輩の家はパンなどを作っている店なのでお父さんもお母さんも家にいる家庭である。私たちが家にいくと必ずおじさんは顔をみせ、話に加わってくるのである。それにおじさんは私に会うといつも親しみをもった感じで接してくれた。普段家に父も母も仕事でいない私にとっても楽しい一時であった。うらやましくもあ

った。ここで私はテニス部に入ったことで、テニスの他に楽しい経験をすることができた。

今、私は三年間部活を最後までやり通すことはできなかったが、いい思い出がいっぱい残っている。そして、今でもテニス部の人との交流は続いている。一年間だけのテニス部活動であつたがほんとによかったと思う。

努力の大切さ

三年 中 者 直 美

「おねがいします」今、五稜対桐花の試合が始まろうとしている。私たちのただ一つの願望は、この桐花に勝ち、一回戦を突破することだ。ジャンプボールが上がった時「ピー」と審判の笛が中体連一回戦目の幕を上げた。

二年前——初めての練習はバス。なかなかうまくいかないのを頭をひねらしていたら三年の先輩たちがやさしく教えてくれた。(なんてやさしいんだろう)と思ったのもつかの間で、部に入って三日もたたぬ内に私は先輩たちに恐怖を覚えた。が、私は一日も練習を休まず毎日努めた。中体連が近く迫り、先

輩たちの影で私たち一年はボール拾いに一生懸命だった。

本格的な練習を始めたのは中体連が終って三年の先輩たちが引退してすぐにきた夏休みからだ。

校内を五周走り、フットワーク、ドリブル、ランニングシュート、三対二がいつものメニューだ。基本的な練習を主に大切にし、石井先生がくると応用練習をする。

「三戦速攻」先生がそう言った時、私は深いため息をついてしまった。それは三人一組でパスを回しながらゴールまで走りシュートしてもどつてくるのだ。私をもっともいやだと思う練習で、先生はさらに一本でもシュートを落としたら続けてやり直しをつけ加えた。先輩たちが終わり、いよいよ私たちの番になった。パスを回す、真ん中の人は私だ。シュートはしなくてもよいが、パスをうまく左右の人に、捕りやすいように投げてやらなくてはならない。緊張のせい一本目、二本目と失敗してしまった。息が苦しくなる。とにかく両方のゴールにシュートしなくてはならない。片方は入った。惜しいあと一本なのに。かなり走り続けた。暑さと呼吸が苦しくなり倒れそうになった。けれど、私たちは走りシ

ュートをねらった。一生懸命がんばったが結局、先生に止められ、シュートは入らなかった。私は、その時初めて（くやしい）と思った。

ピー。試合終了の笛がなった。終わった。私たちの中体連は終わった。みんなうつむいたまま何も言わない。桐花が喜びの悲鳴を上げ、その前を私たちは堂々と通って体育館を去った。

今、部活を終えて思うこと。私は部活でいろんなことを学んだ。それはチーム・ワークの大切さ。そして練習の努力の必要さだ。試合には負けたが、その負けた時のくやしさを忘れてはいけないと思う。苦しい練習も、今となつてはよい思い出となった。自分はずごく強くなったと思う。

病棟での生活

五稜郭養護学校二年

和井内 由美

昭和六十年六月二十六日。この日は、わたしの人生を大きく変えた日です。

最初のうちはよかったが、くすりを飲みはじめ、副作用で高熱を出し、初めてこんな

高熱をだしたため、その夜は、体のやり場がなく、あばれて、本当に、死ぬかと思いました。それからが、地獄です。首が重たく、口がまわらなく、手がきかなくなり、立っていられなくなっていました。八雲の病院に入って検査・入院。八雲での病棟生活は「自由」。この言葉がぴったりです。ご飯もいいし、おやつと夜食もあるしよかったのですが、欠点は、山の中ですから虫がたくさん入ってきたことです。病棟の子どもたちともすぐ友だちになりました。みんな気もちが、ゆったりしてるのです。それのおかげか、首もなおり、口もだいぶよくなり手もきくようになりました。……そのあと、今の生活です。朝起きて薬を飲み、血圧を測り、また寝て七時ころ洗面し、朝食。薬を飲み、今では着替えて、学校に行く。そうして、昼には、帰えり、昼食をとり、また、学校に行く。帰って来て、耳鼻科に行き、そうしているうちに、夕食です。そして、薬と血圧。すこし休んで、ちよつぱりと勉強する。七時になれば、おやつを食べながら遊ぶ、しばらく、遊んで洗面に行く、そうして寝る。

これからは、一日も早く、退院できるようがんばりたいと思います。

本年度の歩み

— 学校日誌より要約 —

〔十一月〕

上旬 校内綱引き大会
二五日 勤労感謝の会

〔十二月〕

二・三日 期末テスト
六日 中学校生徒会ブロック会議
十二日 中学校生徒会協議会総会
父母会始まる

〔二月〕

二四日 第二学期終業式
二十日 第三学期始業式
二四日 実力テスト
三一日 三年期末テスト

〔二月〕

四日 中体連スキー大会
六日 冬の遠足
二一日 私立高入試
二五日 避難訓練

〔三月〕

五・六日 一・二年期末テスト
十二日 公立高入試
十五日 卒業生を送る会
卒業式
二四日 修了式

〔四月〕

六日 入学式・新任式・始業式
九日 新入生を迎える会
十日 身体測定

〔五月〕

一日 家庭訪問始まる
十二日 修学旅行出発
十四日 春の遠足
十五日 修学旅行帰函
二八日 体育大会練習始まる

〔六月〕

四日 校内体育大会
六日 中間テスト
十一日 生徒総会
十六日 中体連陸上競技大会
十七日 開校記念日
二二日 第八回校内マラソン大会
二八日 二年宿泊研修出発
二九日 二年宿泊研修帰函

〔七月〕

二・三日 期末テスト
七日 通信陸上競技大会
十六日 中体連七種競技会
二六日 第一学期始業式

〔八月〕

二一日 第二学期始業式
二六日 実力テスト

〔九月〕

三日 第二十回校内水泳大会
十日 第六回生徒会大運動会
十七日 生徒会役員立会演説会
二七日 校内弁論大会

〔十月〕

三・四日 第二五回文化祭
十一日 秋の遠足
十六日 中間テスト
下旬 校内球技大会

職員住所録

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	教諭	校長			
石津	伊藤	板東	三河	川島	山岸	渡辺	橋詰	武田	寺根	杉谷	竹村	佐々木	安井	大野	龜松	寺岡
兼一	英明	忠康	和宏	啓右	岩夫	満	尤子	蒼子	正善	宏	英夫	一夫	歳男	哲朗	光美	守男

教諭	石井 寿八	同	石名坂克明	同	大坂 邦子	同	吉田 孜	同	小林 康秀	同	大森 武治	同	大久保美奈	同	井上 嗣仁	同	日向 泰子	事務	島村 和子	同	佐古 惠美	給食	早崎 石子	同	熊谷 トシ	用務	小林 勇	同	伊藤 陽二	同	清田 弘子	同	立川 行恵	当直
----	-------	---	-------	---	-------	---	------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----	-------	---	-------	----	-------	---	-------	----	------	---	-------	---	-------	---	-------	----

【編集後記】

◇生徒会役員にとって最も大きな仕事である「五稜」の編集。先生方やみなさんに迷惑をかけながらも、なんとか一段落しました。

最初は「こんなに時間があるのだから」と思いのんびりとしていましたが、メ切りが近づくのは、本当に早く、そんなにのんびりもできなくなり、自分でも、何が何だかよくわからず、がむしやらにやっていた時も、ありました。

しかし、生徒会役員の人達、先生方、各クラスの人達、多くの人々の協力をもとに一生懸命作りあげたのが、この「五稜」です。

皆さんに愛読してもらうのを願います。

来年の「五稜」は、どのように作られるのでしょうか。僕達作りあげた「五稜」を参考にしてみたいな……と思います。最後に、編集に協力してくれた皆さんに心から感謝します。〈三好 康弘〉

◇来年の「五稜」は、どのようになっているかが楽しみです。なんて書いて、結局また僕が編集して、編集後記を書いている今日のごろ……。これで編集後記を書くのも最後なので、本当にしめをします。来年の「五稜」は、どのようになっているかが、楽しみです。

◇先パイのよいことは書けないけど、一応、私も手がけた、「五稜」です。ほとんど先パイがやっちゃいましたが、なぜか、編

（樋本 博）



集後記を書くハメに……。『私以外』の生徒会役員、全校生徒で作った「五稜」楽しんで下さい。

（萩原 りき）

◇去年までは、何もやらずにただ読むだけでしたが、今年は、実際に自分がやらなければならなくなり、とても大変でした。自分でも原稿を集めたり、文章を考えたり、本当に大変でした。自分にとっても初めての仕事で、毎日夜遅くまで残って本当に苦労しました。なんだかんだ言っても、完成したのが本当によかったです。

（白鳥 清志）

◇昨年の9月に役員となつてから、失敗も多かったですが、精一杯やってきました。特にこの「五稜」は、役員の人達、先生方、各クラスの人々等、多くの人と一生懸命に作りあげました。みなさんは読んでみて気に入ってもらえたでしょうか？ そうであれば大変うれしいです。

（斎藤 敬子）

◇今回の編集では、意見も多く、いろんなことがあったけど、自分では、仕事もだいたいうまくいったし、全体的に、上出来だったと思います。この「五稜」は、全校生徒によって出来たものと、考えています。これからの仕事も、全員で、協力してがんばります。

（田中 健太郎）

◇「五稜」編集—生徒会ではじめての大仕事でしたが、実際やってみると「大変だなあ」と本当に思いましたが、今はただただ「疲れたあ」という気持ちと、「終つてよかった」という気持ちでいっぱいです。完成できて、本当によかったです。

（米田 朋加）

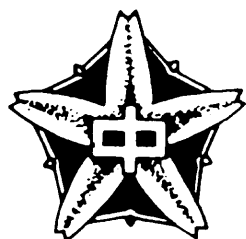
五 稜 第二十五号

昭和六十一年三月十日 印刷
昭和六十一年三月十五日 發行

編集 函館市立五稜中学校
生徒会編集委員会
發行 函館市立五稜中学校
印刷 共立印刷

函館市昭和三二四一九
電話 四三―七六五〇

表紙 二年 叶野 彰浩



函館市立五稜中学校生徒会